

平成 18 年度(第 50 回)
岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

中学校国語科において
古典を理解する力を育むための研究
「Gアップシート」の活用をとおして

平成 19 年 1 月 9 日
長期研修生
所属校 雫石町立雫石中学校
氏名 小田 中 一

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	1
研究結果の分析と考察	2
1 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想	2
(1) 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本的な考え方	2
(2) 古典を理解する力を育むために「Gアップシート」を活用する意義	2
(3) 古典を理解する力を育むために「Gアップシート」を活用した学習指導の展開	3
(4) 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想図	4
2 実態調査及び調査結果の分析と考察	5
(1) 実態調査の目的と内容	5
(2) 実態調査結果の分析と考察	5
(3) 実態調査から明らかになった問題点と課題	7
3 中学校国語科において古典を理解する力を育むための手だての試案	7
(1) 手だての試案作成の観点	7
(2) 手だての試案作成の留意点	7
(3) 手だての試案	7
(4) 検証計画	9
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	10
(1) 古典を理解する力を育むための授業実践の概要	10
(2) 実践結果の分析と考察	13
5 中学校国語科において古典を理解する力を育むための研究のまとめ	17
(1) 成果	18
(2) 課題	18
研究のまとめと今後の課題	18
1 研究のまとめ	18
2 今後の課題	19
<おわりに>	19
【引用文献】	19
【参考文献】	19
【参考Webページ】	19

研究目的

中学校国語科における古典の指導では、「古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること」が求められている。我が国の文化や伝統を尊重し、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てるためには、表現の仕方や文章の特徴に注意して読んだり、人間、社会、自然などについて考えたりすることをとおして、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養うことが大切である。

しかし、古典の学習に対する生徒の実態は、古語や古文に対する抵抗が大きく、作品の内容をとらえられない状況にあるために、古典を理解する力が十分に育っているとは言い難い。これは、古典学習の教材と指導時数が限られている中で、指導目標の明確化が不十分なまま指導していたことと、生徒自身に実現の状況を振り返らせるための手だてが不足していたことが原因と考えられる。

このような状況を改善するには、評価規準を基に、授業の目標をより明確にし、学習状況に応じた指導を展開していくことと、生徒自身に実現の状況を把握させながら、学習に取り組みさせることが大切である。その手だてとして、評価規準に対応した問題を盛り込んだシート（Gアップシート）を、授業において活用することが有効であると考えられる。

そこで、この研究は、「Gアップシート」の授業における活用をとおして、古典を理解する力を育むための学習指導の在り方を明らかにし、中学校国語科における古典指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

中学校国語科の古典の授業において、次のような場面で「Gアップシート」を活用すれば、古典を理解する力を育むことができるであろう。

- 1 古文の特徴に注意して正確に音読する場面
- 2 作品に描かれた心情や情景などの内容を確認する場面
- 3 学習内容の理解や定着を図る場面

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想の立案(文献法)
中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本的な考え方をまとめ、育みたい力を明らかにするとともに、仮説に基づいて古典を理解する力を育むための基本構想を立案する。
- (2) 基本構想に基づく実態調査及び調査結果の分析と考察(質問紙法)
古典学習に対する意識及び、これまでの学習活動の実態について調査する。
- (3) 基本構想に基づく手だての試案の作成(文献法)
基本構想及び実態調査の結果に基づいて、「Gアップシート」の活用をとおして古典を理解する力を育むための手だての試案を作成する。
- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察(授業実践、観察法、テスト法)
手だての試案に基づいて、第3学年単元4「古典に親しむ」教材「音読を楽しもう(古今和歌集仮名序)」と「君待つと(万葉・古今・新古今)」の学習指導案を作成し、授業実践を行う。また、検証計画に基づいて、古典を理解する力の育成状況について分析と考察を行う。
- (5) 中学校国語科において古典を理解する力を育むための研究のまとめ
本研究において明らかになったことを整理して、中学校国語科における古典指導の改善につながるようにまとめる。

2 授業実践の対象

栗石町立栗石中学校 第3学年2学級(男子42名、女子33名、計75名)

研究結果の分析と考察

1 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想

(1) 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本的な考え方

ア 中学校国語科における古典指導

国語科における古典指導は、小学校段階で、易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむことの指導が行われている。その後、中学校段階では、古典の入門的学習が行われ、更に本格的な古典の読解・鑑賞は、高等学校において行われている。つまり、小学校・中学校・高等学校と、系統的で発展的な学習をとおして、我が国の文化や伝統を尊重し、生涯にわたって古典に親しむ態度が育まれていくことになる。

中学校国語科における古典指導のねらいを達成するために重要なことは、古典の楽しさを味わわせることである。つまり、古典の学習をとおして、「昔の人たちはいいことを言っているな」とか、「古典っておもしろいぞ」、「もっと他の作品も読んでみたい」という感情を抱かせることが大切である。その上で、「古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにする」には、古典としての古文や漢文を理解するための基礎を身に付けさせなければならない。したがって、中学校国語科における古典指導では、学習に対する生徒の情意面を考慮しながら、古典を読む楽しさや、古典を学ぶ喜びを味わうために必要となる、「古典を理解する力」を育むことが求められている。

イ 古典を理解する力を育む意義

「古典を理解する基礎を養うこと」について、桑田・勝山(1991)は、「次の九つの事項ができるようにすること」と述べている。

- ・古文の理解に必要な言葉のきまりを理解する
- ・古文の独特なリズムに読み慣れる
- ・現代文と異なる表現法や文章の特徴に目を向ける
- ・注釈を手がかりに現代語訳ができる
- ・古典的な世界のものの見方、考え方、感じ方などについて理解を深め、現代と共通するものまたは、異なるものなどについての自分の感想が書ける
- ・我が国の古典文学の主な作品を歴史的に概観できるようにする
- ・時代環境や文化と作品とのつながりを考えるようにする
- ・言葉や表現法は時代とともに変化するものであることを予想できる
- ・外国人に日本の古典文学を紹介しようという観点をもって学習する

これら九つの事項は、中学校3年間の古典学習全体をとおして養われることである。そこで、本研究における「古典を理解する力」を育む要素を、次の四つに定義した。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・古文を正確に音読する・文章の特徴に目を向け、表現の仕方や技法を把握する・注釈を手がかりにして心情や情景などを読み取る・古人のものの見方や考え方、感じ方について理解する |
|---|

中学校の古典指導では、古典に親しませることを主眼にした指導の工夫が求められている。学習指導要領の内容をふまえた上で、四つの要素を身に付けさせることにより、我が国の文化や伝統を尊重し、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成できるので、「古典を理解する力」を育むことには意義がある。

(2) 古典を理解する力を育むために「Gアップシート」を活用する意義

ア 「Gアップシート」とは

「Gアップシート」とは、本県の学力向上に資するよう内容を検討した評価規準(「いわてスタンダード」)に示された、「中核となる力」に対応して作成した評価問題で構成されている学習シートのことである。

「いわてスタンダード」とは、学習指導要領及び国立教育政策研究所作成の評価規準を基にして、本県の生徒の実態をふまえて、国語科において生徒に身に付けさせたい「中核となる力」を明確に示したものである。

本研究における「中核となる力」と古典を理解する力の「四つの要素」との関連は、【表1】のとおりである。

【表1】「中核となる力」と「古典を理解する力の四つの要素」との関連

学習指導要領の項目	「いわてスタンダード」の「中核となる力」	関連	古典を理解する力として定義した「四つの要素」
Cア 語句の意味や用法	語句から、心情や状況・情景を読み取ることができる 言葉の響き、仮名遣いを理解することができる 語句の意味を正しく理解することができる		古文を正確に音読する
Cウ 表現の仕方	表現の仕方(表現技法など)を理解することができる 文章の特徴(文体など)を理解することができる		文章の特徴に目を向け、表現の仕方や技法を把握する
Cエ 主題や要旨と意見	心情や状況・情景を考慮することができる 書き手の思考や心情を理解することができる 書き手の思考や心情について、自分の意見をもつことができる		注釈を手がかりにして心情や情景などを読み取る
Cオ 情報の活用	必要な情報を書物や資料から収集することができる 収集した情報を自分の表現に活用することができる		古人のものの見方や考え方、感じ方について理解する
言(1)イ 語句	多様な語句を理解することができる		
言(1)カ 単語	付属語の性質を理解することができる		

【注】：「中核となる力」欄の「 」はシート問題に対応しているもの、「 」は授業で指導する内容を表す。

また、「Gアップシート」は、生徒の学習を直接支援するもので、次のようなことをねらいとしている。

- ・シート問題に取り組むことで各自の学習の理解や定着の状況が把握できる
- ・シート問題に取り組むことで各自の学習課題が把握できる
- ・シート問題に取り組むことで補充的な学習や発展的な学習ができる

イ 古典を理解する力を育むために「Gアップシート」を活用することの意義

これまでの古典指導における反省点を改善するために「Gアップシート」を活用することは、有効な手だてになると考える。それは、単元や教材及び一単位時間における目標を明確にした上で、生徒自身に実現の状況を把握させながら「Gアップシート」に取り組みさせることにより、次のような効果が期待できるからである。

教師側にとっては、限られた時数で指導すべき事項が精選されるために、ねらいを明確にして指導を行うことができるようになる。また、生徒のつまずきの実態を把握した上で、個に応じて補充的な指導を行うときの指針にしたり、落ち込んでいる部分を取り立てて指導したりするとき、直接的に生徒の活動を支援する資料とすることができる。生徒側にとっては、「Gアップシート」に記載されたねらいに基づいて、学習内容の理解や定着の状況が把握できる。そのことが、意欲や自信をもって音読に取り組んだり、作品に描かれた内容を読み取ったりすることに結び付いていく。さらに、「Gアップシート」は、学習内容の振り返りや、次の学習への発展としても用いることができる。このように、「Gアップシート」を授業において活用することには、教師側にも生徒側にも意義がある。

(3) 古典を理解する力を育むために「Gアップシート」を活用した学習指導の展開

本研究において、「Gアップシート」を活用する際の基本的な流れは、【表2】のとおりである。

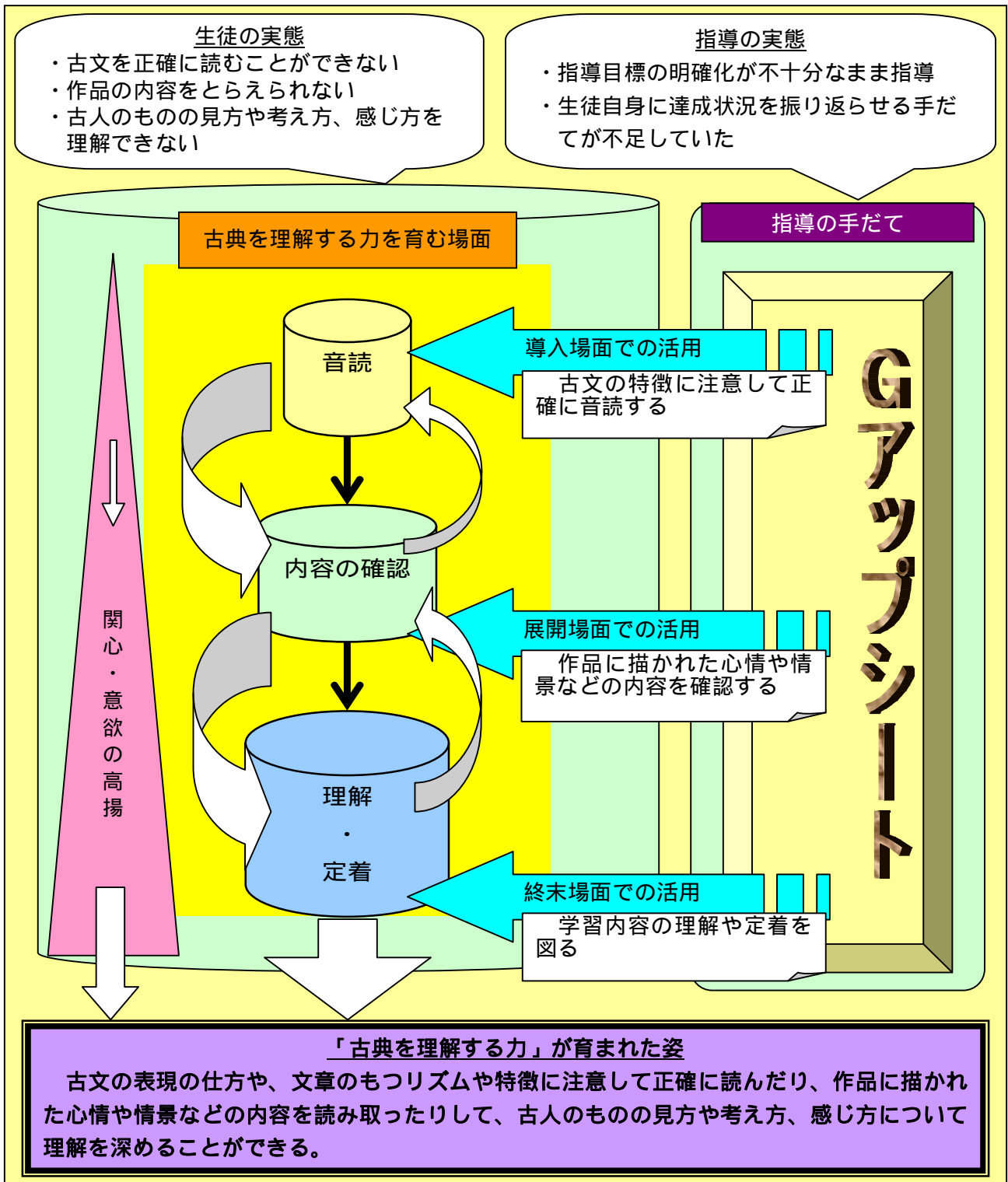
【表2】「Gアップシート」の活用場面とシートのねらい及び学習内容

活用場面	「Gアップシート」のねらい	学習内容
導入場面	・古文を正確に音読できるようにする ・表現の仕方や文章の特徴を理解できるようにする	・歴史的仮名遣い ・古文の表現の特徴 ・和歌の韻律
展開場面	・作品に描かれた心情や情景などの内容を読み取れるようにする ・古人のものの見方や考え方を理解できるようにする	・作品に描かれた人間、社会、自然などの内容の読み取り
終末場面	・既習の学習事項を確認できるようにする ・他の古文に発展的に取り組めるようにする	・学習内容の確認と定着 ・既習事項の応用

実際の授業では、「Gアップシート」の問題に、既習教材及び初見教材で構成された問題を取り上げる。これらの問題によって、表現技法・古語の意味・助詞の省略・会話文の抜き出しなどの、中学校の古典学習に必要な基礎的知識を身に付けさせることができると考える。また、初見教材によって、自分自身の力で古文を読み解いていくことの喜びや成就感を味わわせることもできると考える。

(4) 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想図

中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想図を、【図1】のように作成した。



【図1】 中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想図

【表4】古文の大切さに対する生徒の意識とその理由

項目	理	由
ア	<ul style="list-style-type: none"> 昔の人の書いた文を読解することで、今からずっと離れた人の気持ちを知ることができるから 昔の生活で使われていた言語が今に至っているの、今使っている言語を正しく使うために必要だ 昔の書物を読むときに必要だし、古文は、深くやっていると昔の人達の心情が分かるから 昔の人達のやっていたことや昔の美しい言葉を知り、未来の人達に伝えていくことは、大切だと思う 勉強したら、いろいろ役に立つかもしれないし、昔のを知ることは大切だと思うから 歴史を学べるし、昔のことを少しでも覚えたいから。それに、国語力もつくから 	
イ	<ul style="list-style-type: none"> 昔のことを覚えている人が少なくなると、最後にはそれがあつたことさえ忘れてしまうと思うから 現代文だけでなく古文なども習った方が楽しいし、昔の話や文化を昔の言葉で理解するのは大切だから 勉強やテストなどに出てくるし、受験や高校に行ってから必要だから 社会に出てから使うかもしれないし、日本人として知っておくべきだから 難しいけど覚えれば損はしないから。あと、古文を学ぶとおもしろみがあるから 	
ウ	<ul style="list-style-type: none"> 古文に興味がある人にとってはともかく、僕のように古文に興味をもたない(もてない)人にとっては、学ぶ必要はないと思ったから。興味がある人だけ学べばいいのだから、義務教育で古文について学習する必要はないと思います 歴史に触れることだから大事なのかなあとは思うけど、やらないといけない理由もよくわからないし、社会に出てからもあまり使わないと思う。それに、役に立つかどうか疑問だから 古文は大人になってもあまり見ることも使うこともないと思うので、少し分かっていればいいと思う 勉強した方がいいとは思うけど、内容がよくつかめないし、今に関係ないと思うから 興味が無い。難しいし、必要ないから 	
エ	<ul style="list-style-type: none"> 今はもう使わなくなった言葉だから、習っても意味がない。そんな昔のことよりも、現代語とか、今をもっと勉強して、大事にした方がよい 昔の話には興味がないし、つまらないから めんどくさいし、別に大切だと思わない 	

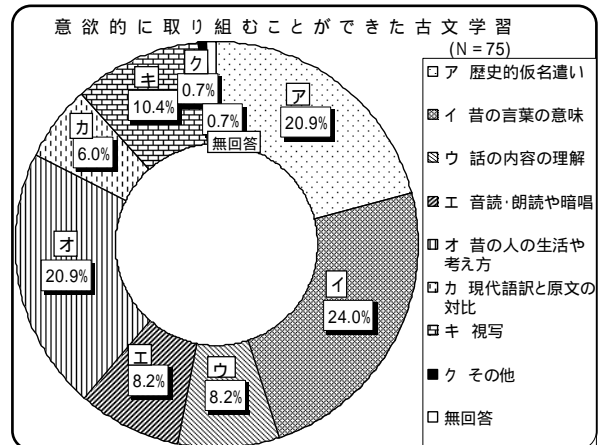
イ これまでの古文学習における生徒の意欲の傾向にかかわる実態の状況

【図3】と【図4】は、これまでの古文学習における生徒の意欲の傾向にかかわる実態について、調査した結果をまとめたものである。

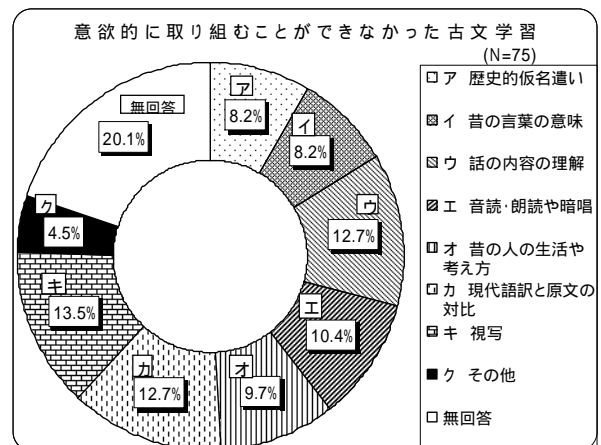
【図3】によれば、これまでの古文学習で意欲的に取り組むことができたこととして、「イ 昔の言葉の意味」(24.0%)、「ア 歴史的仮名遣い」(20.9%)、「オ 昔の人の生活や考え方」(20.9%)の割合が高い。また、「カ 現代語訳と原文の対比」(6.0%)、「ウ 話の内容の理解」(8.2%)、「エ 音読・朗読や暗唱」(8.2%)の割合が低い。

【図4】によれば、これまでの古文学習で意欲的に取り組むことができなかったこととして、「キ 視写」(13.5%)、「ウ 話の内容の理解」(12.7%)、「カ 現代語訳と原文の対比」(12.7%)の割合が高い。また、「ア 歴史的仮名遣い」(8.2%)、「イ 昔の言葉の意味」(8.2%)の割合が低い。さらに、「無回答」の割合(20.1%)が高いことも読み取れる。

自由記述による理由には、各項目に共通して、「おもしろい・つまらない」、「興味がある・ない」などの、情意面に関するものが多かった。また、「キ 視写」の項目については、「ただ写すだけだから簡単にできる・ただ写すだけだから意味がない」の理由に代表されるように、古文学習に対する意識において、個人差が特徴的に表れている。



【図3】意欲的に取り組めた古文学習



【図4】意欲的に取り組めなかった古文学習

(3) 実態調査から明らかになった問題点と課題

中学校国語科において古典を理解する力を育むための研究に関わる実態調査の結果を分析・考察したところ、問題点と課題が明らかになった。

ア 問題点

- ・古文学習を大切に思っていない生徒の割合が4割以上いること
- ・古文学習における指導に工夫が足りないこと

イ 問題点として考えられる要因の分析

上記アの問題点の要因は、古文の基礎的な知識を身に付けさせるために、教師による一方的な授業展開となっていて、生徒の興味・関心や意欲を大切にされた授業が少ないからではないかと考えられる。その結果として、古文の作品そのものに対する意欲というよりも、古文を学習する授業に対する意欲が低くなってしまっている状況が予想される。

ウ 課題

- ・古文の指導過程の中に、生徒自身が学習内容の定着を確認するような活動を位置付けることが必要である
- ・教材を読んで、生徒が考えたり気付いたりしたことを表現する活動などとおして、古文学習への意欲を高めたり、有用感をもたせたりする必要がある

3 中学校国語科において古典を理解する力を育むための手だての試案

(1) 手だての試案作成の観点

中学校国語科において古典を理解する力を育むための研究に関わる基本構想及び実態調査の結果を分析して得られた課題から、次の三点に基づいて手だての試案を作成することとした。

ア 古文の特徴に注意して正確に音読することができるようにする。

イ 表現の特徴を理解して内容を読み取ることができるようにする。

ウ 学習内容の実現状況を確認できるようにする。

(2) 手だての試案作成の留意点

ア 古文の特徴に注意して正確に音読することができるようにする工夫

- ・古文の特徴に注意させるために、「Gアップシート」を活用して歴史的仮名遣いに慣れさせ、分類しながら法則性をとらえさせること
- ・古文のもつ独特のリズムに慣れさせるために、段階を追った音読を繰り返し、古文の読みに対する実現状況を把握して、個に応じた指導を取り入れながら音読させること

イ 表現の特徴を理解して内容を読み取ることができるようにする工夫

- ・助詞の省略や係り結びの法則などの、古文の表現の特徴を理解させるために、「Gアップシート」を活用して教材に即して必要な範囲で確認できるようにすること
- ・内容の理解を図るために、実現状況に応じて発展的な内容の「Gアップシート」にも取り組ませるようにすること

ウ 学習内容の実現状況を確認できるようにする工夫

- ・読み取った内容について、「Gアップシート」を活用して学習の定着を図るようにすること
- ・つまずきの見られる生徒には、その状況に応じながら段階をふまえた支援をすること

(3) 手だての試案

手だての試案を作成するにあたり、【表5】に、古典学習における各学年の目標並びに学習内容及び教材、それに対応する「Gアップシート」のねらいを分類した。【表5】は、手だての試案に「Gアップシート」を位置付ける際の資料とするために作成したものである。

【表5】 古典学習の各学年目標並びに学習内容及び教材と対応する「Gアップシート」のねらい

学年	目 標	学 習 内 容	教 材	「Gアップシート」のねらい					
				A	B	C	D	E	F
1年 古典 入門 期 の 基 礎 段 階	古典とは何かを知り、古典の世界に親しむ	・古文の仮名遣いを知る ・古文の音読を楽しむ	音読を楽しもう いろは歌						
		・仮名遣いに注意して音読し、古語の響きや調子に読み慣れる ・古典に対する興味や関心をもち、現代とのつながりを考える	蓬萊の玉の枝 『竹取物語』から						
	古典のおもしろさに目を向ける	・自分たちのものの見方や感じ方との共通点や相違点について考える							
		・故事成語の由来を理解して、ものの見方や考え方を広げる	今に生きる言葉						
2年 古典 入門 期 の 発 展 段 階	昔の人の心に触れ古典を楽しむ	・古文に読み慣れる ・声に出して読み、言葉の響きや調子をつかむ	音読を楽しもう 『枕草子』						
		・昔の人のものの見方や感じ方をとらえる	扇的 『平家物語』から						
	表記や表現に注意し、古典の文章に読み慣れる	・場面の状況や、その場に置かれた人物の心情を読み取る	仁和寺にある法師 『徒然草』から						
		・筆者のものの見方をとらえ、人間の生き方について考える	漢詩の風景						
		・漢詩にふれて、情景を想像したり、昔の人の心情をとらえたりする ・漢詩特有の調子を生かして読み味わう							
3年 古典 入門 期 の 応 用 段 階	古人の生き方や考え方を読み取り 古典の心を味わう	・仮名遣いや表現の仕方に注意して音読し、言葉の響きや調子を味わう	音読を楽しもう 古今和歌集仮名序						
		・和歌に表現された古人の思いや情景を読み味わう ・当時の人々の暮らしに思いを巡らす	君待つと万葉古今新古今						
	古典特有の言い回しなどを理解して古典の文章に読み慣れる	・作者のものの見方や感じ方を読み取る ・「旅」にこめられた作者の思いをとおして、人間の生き方について考えを深める	夏草 『おくのほそ道』から						
		・漢文特有の言い回しに注意して読み慣れる ・作者のものの見方や考え方の特徴をとらえ、自分のものの見方や考え方を深める	学びて時にこれを習ふ 『論語』から						

「注」・表内の記号のうち、「」はその教材で活用する項目を、「」は重点項目を示す

・「Gアップシート」のねらいの欄における記号(A～F)は、以下の内容を表す

A：正確に音読する・歴史的仮名遣いを理解する

B：表現の仕方や文章の特徴を理解する

C：作品に描かれた内容を読み取る

D：古人のものの見方や考え方を理解する

E：学習内容の定着を図る

F：学習内容の発展を図る

【表5】をもとに作成した手だての試案を、【図5】に示す。

場面	学 習 活 動	Gアップシートの活用場面	指導上の留意点
導入	1 学習計画の確認をする	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">1 古文を正確に音読するための「Gアップシート」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2 文章の特徴に目を向け、表現の仕方や技法を把握するための「Gアップシート」</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の学習に対する見通しをもたせる ・主体的な活動になるように、意識付ける ・古文の表現の仕方や文章の特徴（歴史的仮名遣い・文体・助詞の省略）を確認させる ・古文特有のリズムに慣れて、正確に音読するための工夫をする（段階を追い繰り返し音読させる） ・生徒の達成状況を把握しながら指導する
	2 古文の特徴に注意して正確に音読する (1) 歴史的仮名遣いに慣れる 分類して法則性をとらえる (2) 古文の特徴をとらえる (3) 繰り返し音読して、正確に読めるようにする 範読 追い読み 一人読み グループ読み 一斉読み		
	3 次の段階へ向けた見通しをもつ		
展開	4 前段階までの学習内容を想起する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">3 注釈を手がかりにして心情や情景などの内容を読み取るための「Gアップシート」</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことへの抵抗を減らす ・古語の意味を確認させる ・教材文に即して、表現の特徴をとらえさせる ・原文の意味を理解するために脚注を利用して助言する
	5 作品に描かれた心情や情景などを読み取る (1) 脚注を中心に古語の意味を確かめる 教材文に即してとらえる (2) 係り結びの法則など、古文の特徴を内容理解に結び付ける		
	6 内容や表現を読み味わう (1) 内容を確認する		
終末	7 次の段階へ向けた見通しをもつ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">4 古人のものの見方や考え方、感じ方について理解するための「Gアップシート」</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間、社会、自然などの読み取った内容に対して、自分の意見をもたせる ・音読、暗唱、朗読と、発展的な読みに取り組めるような、支援をする ・これまでの学習内容を振り返らせて、達成状況に応じた支援をする ・これからの学習の方向性を助言する
	8 これまでの学習内容を振り返ってみる		
	9 学習内容の理解や定着状況を確認する (1) 読み取った古文の内容に対し自分の意見をもつ 古人と現代人の見方や感じ方を比較する (2) 暗唱に向けて音読する (3) 暗唱した文章を朗読する		
	10 これまでの学習内容をまとめる (1) 古人のものの見方や考え方に触れる 文章に読まれた人間、社会、自然などについて考えてみる ・現代における古文の価値について考える		
	11 これまでの学習内容を発展的な学習へつなげる		

【図5】 古典を理解する力を育むために「Gアップシート」を活用した手だての試案

(4) 検証計画

授業実践をとおして手だての試案の有効性を検証するために、【表6】の検証計画を作成した。

【表6】 検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
古典を理解する力の育成状況	古文を正確に音読する	テスト法 観察法	<ul style="list-style-type: none"> ・「Gアップシート」による、歴史的仮名遣いの定着状況の把握 ・古文の音読に要した時間を計測して、その結果を分析・考察する ・読む活動を観察して、分析・考察する
	文章の特徴に目を向け、表現の仕方や技法を把握する	テスト法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後テストの結果について、達成状況の比較を行い、分析・考察する
	注釈を手がかりにして心情や情景などを読み取る	観察法 テスト法	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動の様子及び、「Gアップシート」への記述内容を、【表7】に基づいて、分析・考察する
	古人のものの見方や考え方、感じ方について理解する	質問紙法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前及び事後の意識の変容状況を、²検定を用いて分析・考察する ・古人のものの見方や考え方、感じ方に対する生徒の感想を、分析・考察する

【表7】は、記述式のテスト問題の解答から、「注釈を手がかりにして心情や情景などを読み取る」ことの育成状況を判断するときの具体的な姿を示したものである。

【表7】記述内容を判断する具体的な姿

検証内容	判断する具体的な姿		
	A	B	C
注釈を手がかりにして心情や情景などを読み取る	作者の状況や心情・情景などを正しく読み取り、自分の言葉で書いている	心情や情景などを表す言葉を、抜き出して書いている	注釈や補説を内容理解に結び付けられず、心情や情景を読み取ることが難しい

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 古典を理解する力を育むための授業実践の概要

ア 指導実践の計画

- (ア) 対象 雫石町立雫石中学校 第3学年2学級(男子42名、女子33名、計75名)
- (イ) 指導実践期間 平成18年9月4日～9月15日
- (ウ) 単元の指導計画

手だての試案に基づいて、中学校第3学年国語第4単元「古典を楽しむ」における教材「音読を楽しもう(『古今和歌集』『仮名序』)」及び、「君待つと(万葉・古今・新古今)」(平成18年版光村図書)の授業実践に関わる指導計画を【表8】のように作成した。

【表8】手だての試案に基づく指導実践計画(5時間扱い)

段階	時	学習目標	主な学習活動の内容	指導・援助(「Gアップシート」活用)
			事前調査	事前調査用紙を提示する
古典に親しむ	1	古典の学習に意欲的に取り組もうとすることができる 古今和歌集仮名序を正確に音読することができる	学習計画の確認をする 歴史的仮名遣いや言葉の切れ目に注意して正確に音読する	歴史的仮名遣い、和歌の基礎知識などの確認 <Gアップシート>
古典を楽しむ	2	万葉集を読み、心情や情景などの内容を読み取ることができる	和歌に詠まれた古人の思いや情景を読み味わう(2～4時)	万葉集の代表的和歌に詠まれた内容を理解させるための支援 <Gアップシート>
	3	古今和歌集・新古今和歌集を読み、心情や情景などの内容を読み取ることができる	声に出して読み、言葉の響きを楽しむ(2～4時)	古今和歌集及び新古今和歌集の代表的和歌に詠まれた内容を理解させるための支援 <Gアップシート>
古典を味わう	4	三大和歌集の代表的な和歌を読み味わうことができる		三大和歌集の代表的な和歌を読み味わうための支援 <Gアップシート>
	5	百人一首に親しみ古典の世界を味わうことができる 和歌学習の内容をまとめる	百人一首(源平合戦)をとおして和歌に親しむ	ルールの確認をした後に、教師が読み手になり、源平合戦に取り組みさせる
			事後調査	事後調査用紙を提示する


(I) 授業実践の概要

手だての試案及び授業実践の指導計画に基づいて学習指導案を作成し、授業実践を行った。次の【資料1】と【資料2】は、授業実践の概要である。

【資料1】授業実践の概要（全5時間の授業実践の中から抜粋（1/5））

目標	『古今和歌集』『仮名序』を繰り返し音読してリズム感を味わわせるとともに和歌について関心をもたせる		
本時の学習課題	『古今和歌集』『仮名序』を正確に音読して、言葉の響きやリズムを味わおう		
段階	学 習 活 動	生徒の活動の様子	「Gアップシート」の活用 発問・支援・評価
導入 古典に親しむ	<p>1 学習内容の確認 古典学習に対する既習事項を思い出しこれからの古典学習に向かう姿勢作りをする</p> <p>2 学習課題の把握 『古今和歌集』『仮名序』の学習を行うことを理解する</p> <div data-bbox="252 459 742 582" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>また古典か。難しいのかな、嫌だなあ。 この絵は見たことがある。 「平泉」って、岩手県の平泉かな？ カナジョってなんだ？彼女なら……。</p> </div> <div data-bbox="893 414 1436 560" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>これまでの古典の授業の様子をふりかえってみましょう。 今日から学習する3年生の古典の教材を眺めてみましょう。 今日の学習課題を確認しましょう。</p> </div> <p>3 課題追究1 言葉の響きやリズム、語調などに気をつけて原文を音読する</p> <div data-bbox="252 649 853 728" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>何を書いているかわからないところがあったなあ。 それよりも、読めないところもあったわ。</p> </div> <div data-bbox="925 616 1436 728" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>では、先生が一度読みます。みなさんは、教科書を持って、先生が読んでいるところを目で追いかけてみてください。</p> </div> <div data-bbox="614 739 1085 772" style="border: 1px solid black; text-align: center;"> <p>古文を正確に音読する場面（1）</p> </div> <div data-bbox="319 795 590 996" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="622 784 1109 996" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1125 795 1436 1142" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>音読する前に、ヒントカードを参考にしながら歴史的仮名遣いの復習をしましょう。 仮名遣いのきまりについて確認しながら、「Gアップシート」の問題1の問題に取り組んでみましょう。不安なところや困ったところは先生に聞いてください。</p> </div> <div data-bbox="252 1008 742 1176" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「はひふへほ」が途中に出てきたときは、「わいうえお」に変化するんだな。 「ゑ」は「え」になるってヒントカードに書いてあるぞ。 「しふじ」って何だ？ 「へう」がわからない。</p> </div> <div data-bbox="774 1008 981 1232" data-label="Image"> </div> <p>4 課題追究2 現代語訳を参考にして、原文のおおよその内容をとらえる</p> <p>5 課題追究3 表現の特徴を理解する</p> <p>6 課題追究4 表現の特徴を生かして音読する</p> <div data-bbox="614 1355 1085 1388" style="border: 1px solid black; text-align: center;"> <p>古文を正確に音読する場面（2）</p> </div> <div data-bbox="252 1400 702 1556" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分担を決めよう。1行目を読みたい人は？どこか読みたいところは？ みんなで読むのをどこにする？ 「言い出せるなり」は「いいいだせるなり」でいいのかな？ みんなで読むのを多くしよう！</p> </div> <div data-bbox="710 1400 997 1601" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1013 1400 1436 1635" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>机を班隊形にしてください。グループで音読してもらいます。役割分担を決めてください。班長が中心になって、各自が読むところや、みんなで声を合わせて読むところを確認してください。決まったら、読む練習もしてください。</p> </div> <p>7 課題解決 発表会をする</p> <div data-bbox="252 1635 590 1758" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>やまとうたは、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、……</p> </div> <div data-bbox="622 1568 933 1769" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="981 1657 1436 1848" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>それでは発表会に入ります。最初に発表してくれるのは？2班のみんです。発表の良いところをしっかり聞いて、自分たちの班が読むときの参考にしてください。それでは、2班のみなさんお願いします。</p> </div> <p>8 学習のまとめと評価 『古今和歌集』『仮名序』における和歌の本質や力をまとめる</p> <p>9 次時予告 次時の内容を知る</p>		

【資料2】授業実践の概要（全5時間の授業実践の中から抜粋(3/5)）

目標	『古今和歌集』と『新古今和歌集』の和歌に詠まれている情景や心情を読み味わわせる		
本時の学習課題	『古今和歌集』と『新古今和歌集』の作品を音読して、和歌に詠まれた心情や情景を読み取る		
段階	学習活動	生徒の活動の様子	「Gアップシート」の活用
展開 古典を楽しむ	1 前時学習内容の想起 前時の学習内容を想起する 2 学習内容の確認 『古今和歌集』と『新古今和歌集』の和歌を学習することを知る 3 学習課題の把握 本時の学習課題を知る		発問・支援・評価
	4 課題追究1 出典を参考に、基礎的事項をまとめる 5 課題追究2 言葉の響きやリズム、語調などに気を付けて音読する 6 課題追究3 和歌に詠まれた心情や情景を読み取る		
	<p>古典は難しいと思っていたけど、昨日のは昔の人の気持ちとかがわかるような気がした。「Gアップシート」をやってみて、難しいところもあったけど、習ったことをふりかえることができたよ。</p>	<p>昨日は万葉集を学習しました。リズムに気を付けて音読できましたね。詠まれた心情や情景も、「Gアップシート」で振り返って確認しました。難しかったですか。今日は古今集と新古今集を学習します。心情や情景を読み取りましょう。</p>	<p>では、音読しましょう。教科書を持って、リズムや調子に気を付けながら、8首続けて読んでください。</p>
	<p>「覚めなければよかった」とあるし、残念な気持ちでいるみたいだから、ずっと会っていた人が夢に出てきたと思う。晴れた日。少し風が吹いて、花びらが湖の上に落ちて、舟の跡が見える様子。「花」って何だ？桜かな？さっきのは梅の花だったよ。</p>	<p>「思ひつつ・・・」の和歌 この和歌は、作者が誰のことを思いながら詠んだのでしょうか。夢に出てきたのはどんな人かな？ 「花さそふ・・・」の和歌 この日は、どんな天気なのでしょう？風は吹いていますか？どんな情景か、想像してみましょう。「花」というのは、この和歌の場合には、何の花を思い浮かべることができますか？</p>	<p>作品に描かれた心情や内容などの内容を読み取る場面</p>
	<p>7 課題解決 学習内容をふりかえり、内容を確認する</p>	<p>学習内容の理解や定着を図る場面</p>	<p>「Gアップシート」</p>
	<p>昨日と同じような『Gアップシート』だけど、難しい問題もあるなあ。でも、教科書に書いてあった。「花」ってやっぱり桜のことでよかったんだね。</p>	<p>今日学習した和歌を、「Gアップシート」で復習しましょう。教科書やプリントなどを見ながら進めてかまいません。分からないところは、先生に質問してください。・・・机間指導・・・ それでは、答え合わせをしましょう。問1から順に、みなさんと答えを言ってみてください。</p>	<p>答え合わせをして間違えたところは、「Gアップシート」でもう一度確認しておきましょう。明日は、教科書の和歌の音読発表会と、教科書には載っていない和歌の学習です。今日のように、明日の授業でも、音読や「Gアップシート」にしっかり取り組みましょう。</p>
	<p>8 学習のまとめと評価 学習内容をまとめる 9 次時予告 次時の学習内容を知る</p>		

授業の様子<「Gアップシート」の活用を中心にして>
 本時のねらいは、和歌に詠まれている心情や情景の読み取りである。3時間めとなり、音読時に暗唱する生徒も見られた。解釈では心情や情景を自由に想像させ、発言をうながしながら生徒自身に読み取らせるようにした。教科書の脚注を参考にして答えようとする姿には、主体的に学ぼうとしている様子が見られた。読み取りの困難な生徒には、想像する時間を確保して、他と同じ答えでも自分で発言させるようにした。活用した「Gアップシート」は、教科書に掲載されている和歌を問題文に構成した。これは、学習内容を確認させることに効果的であったと思われる。特に、心情を読み取る設問は、高い正答率となった。「Gアップシート」は3枚めとなり、5分程の時間で、取り組むことができた。解答も生徒に答えさせ、正答率の低い設問は、内容を再確認させた。

(2) 実践結果の分析と考察

ア 古文を正確に音読することの育成状況

古文を正確に音読するためには、歴史的仮名遣いを正確に読めることが必要である。そこで、読むことの定着を図るために「Gアップシート」を活用して既習事項を再確認させ、定着が不十分なものは、仮名遣いのきまりを繰り返して指導した。歴史的仮名遣いへの抵抗を軽減させた後で、正確に音読する練習を繰り返したことにより、正確に音読することができた。それは、【表9】に見られる結果から推察できる。

【表9】は、『古今和歌集』「仮名序」の音読に要した平均時間と比較した表である。これによれば、1回めよりも2回めの方が5.3秒速く、2回めより3回めの方が、7.2秒遅くなっている。これは、2回めの音読を終えて3回めの音読を行う前に、「一度もひっかからないで読めるように、正確な音読ができるようにしましょう」と指示したために、歴史的仮名遣いを誤読しないように意識したり、古文の文体や古語・文節などの切れ目を意識したりして音読しようとしたことにより、時間が長くなったと推察できる。

	全体(N=60)
1回め	40.9
2回め	35.6
3回め	42.8

この音読では、教科書を持って起立させ、時間を計測しながら音読に取り組みさせた。教室全体に響くような声量ではなく、自分の周囲に聞こえる程度の声量で、正しく音読することを指示して取り組みさせ、読み終えて着席するとともに時間を知らせるという方法で実施したところ、読み終えた生徒には、正確に音読できて安堵の表情を浮かべている生徒や、少しひっかかってしまったことをしきりに悔しがっているような表情をしている生徒などがいた。また、時間がかかっている生徒には、言葉には出さない声援を送っているかのような、温かい雰囲気を感じられた。こうした学級集団の意識も、古文を正確に音読するときには、必要な要因になっていると考えられる。

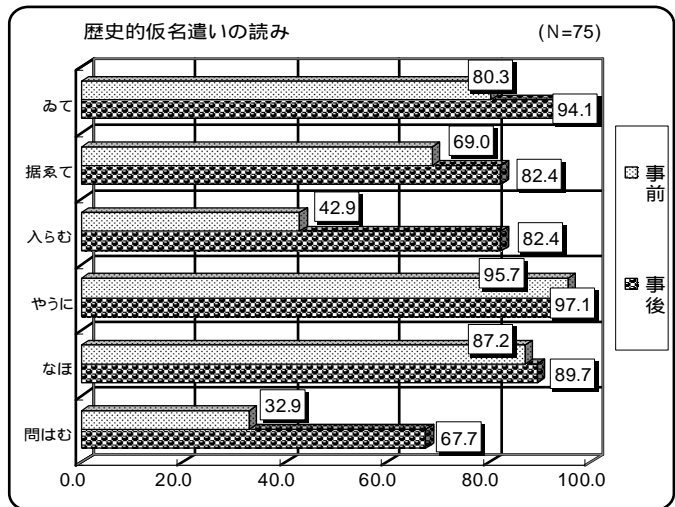
このように、「Gアップシート」を活用して歴史的仮名遣いへの抵抗を軽減させたことと、音読する学習を繰り返したことにより、古語に対する苦手意識が次第に薄れていった。その結果、古文に読み慣れることができた。このことから、古文を正確に音読することについては、育成できたと考える。ただし、日常的に用いられない古文に読み慣れさせるためには、今後も定期的に古文に触れる学習を続けていく必要がある。

イ 文章の特徴に目を向け、表現の仕方や技法を把握することの育成状況

【図6】と【図7】は、古文の特徴や表現の仕方及び技法をとらえる状況について検証するために、『伊勢物語』「第9段(東下り)」を教材とした事前・事後テストを行い、正答率を比較したものである。

【図6】を見ると、歴史的仮名遣いの全ての設問において、正答率が事後に向上していることがわかる。最も向上した設問は「問はむ」で、32.9%から67.7%へと、34.8%向上している。また、「やうに」は、事前・事後ともに90.0%以上の正答率であることや、「問はむ」を除く全ての設問の正答率が、事後には、80.0%以上に向上していることも読み取れる。

正答率が他の設問より低かった「問はむ」について、その主な誤答には、



【図6】歴史的仮名遣いの読み(正答率(%))

【資料4】既習教材「Gアップシート」(古今・新古今)

<p>問一 以下の和歌の心情を読み取り、その心情を最もよく表しているものを一つ選び、その番号を記入せよ。</p> <p>ア 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>イ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>ウ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>エ 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>オ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>カ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p>	<p>問二 以下の和歌の心情を読み取り、その心情を最もよく表しているものを一つ選び、その番号を記入せよ。</p> <p>ア 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>イ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>ウ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>エ 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>オ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>カ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p>
--	--

【表11】情景の読み取り

情景の読み取り	設問	正答率(%)
Gアップシート (資料3)	1	75.4
	2	41.4
	6	60.5
Gアップシート (資料4)	8	100.0
	2	75.4
	5	74.2
	6	81.7

【表11】は、既習教材を「Gアップシート」の問題にして、「情景」を読み取ることの育成状況についてまとめたものである。【表11】

を見ると、最も低い設問の正答率が41.4%、最も高い設問の正答率が100.0%であり、情景の読み取りに関しては、【表10】の心情を読み取る正答率以上に、設問によって正答率に大きな差が見られる。また、それぞれの「Gアップシート」における情景の読み取りでは、設問ごとの正答率の差が大きいものの、【資料4】の「Gアップシート」(古今・新古今)の方が、【資料3】の「Gアップシート」(万葉集)よりも、正答率が高い。

【表10】と【表11】は、既習教材を活用して、学習内容の定着状況を確認したものである。その結果、注釈を手がかりにして心情や情景などを読み取ることについて、正答率に差は見られるが、10頁【表7】の「記述内容を判断する具体的な姿」における「B」評価以上は達成されたと考えられる。

この状況を初見教材でも達成できるかどうかについて、初見の和歌で構成された「Gアップシート」でも検証して、結果を比較することとした。2種類の「Gアップシート」のうち、【資料5】の「Gアップシート」は『万葉集』から、【資料6】の「Gアップシート」は『古今和歌集』と『新古今和歌集』から、それぞれ初見の和歌を取り上げて、つけたい力の定着が図られているかどうかを検証した。

【資料5】初見教材「Gアップシート」(万葉集)

<p>問一 以下の和歌の心情を読み取り、その心情を最もよく表しているものを一つ選び、その番号を記入せよ。</p> <p>ア 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>イ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>ウ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>エ 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>オ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>カ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p>	<p>問二 以下の和歌の心情を読み取り、その心情を最もよく表しているものを一つ選び、その番号を記入せよ。</p> <p>ア 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>イ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>ウ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>エ 万葉集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>オ 古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p> <p>カ 新古今和歌集 巻八 和歌の心 100 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて 春の日のあけぬさなをわが心もよそひて</p>
--	--

【表12】心情の読み取り

心情の読み取り	設問	正答率(%)
Gアップシート (資料5)	5	88.0
Gアップシート (資料6)	2	97.4
	5	88.3

【表12】は、初見教材を「Gアップシート」の問題にして、「心情」を読み取ることの育成状況についてまとめたものである。【表12】を見ると、最も低い設問の正答率が88.0%、最も高い設問の正答率が97.4%であり、心情を読み取る設問における正答率の差が、既習

教材を活用した【表10】ほど大きくはないことがわかる。また、【表10】と【表12】を比較すると、既習教材よりも初見教材の方が、正答率が高いことも読み取れる。

これらのことから、既習事項を初見の問題に應用したことで、つけたい力の定着が図られたと考えられる。そのことにより、高い正答率になっているものと推察される。しかし、和歌に詠まれた心情

(1) 成果

ア 単元の導入段階で、「Gアップシート」を活用して歴史的仮名遣いへの抵抗を減らし、個人読みからグループ読みまでの段階を追って音読を繰り返したことで、古文を正確に音読することができた。また、読むことに対する抵抗感が軽減されたことにより、「Gアップシート」を活用した古文学習に意欲的に取り組めるようになり、文章の特徴に目を向けて、表現の仕方や技法を把握することができた。

イ 作品に描かれた心情や情景などの内容を確認する場面において、既習の和歌で構成した「Gアップシート」を活用したことは、学習内容の読み取りに効果的であった。また、初見の和歌で構成した「Gアップシート」についても、既習事項を応用して取り組み、心情や情景を読み取ることに効果が見られた。

ウ 学習内容の定着を図る場面において、教材文に即した「Gアップシート」を活用して、繰り返し取り組ませたことにより、既習事項の定着が図られた。更に、まとめのために初見の和歌で構成した「Gアップシート」にも取り組み、古人のものの見方や考え方、感じ方について理解することができた。

(2) 課題

ア 単元の終末段階で活用する「Gアップシート」は初見の文章で構成されているために、学習内容を確認する上では、自分自身の力で古文を読み解く喜びを味わわせることができるものの、生徒の実態や授業のねらいに応じて発問内容を変えたり、教材文に即した「Gアップシート」に作り直したりするなど、難易度の調整が必要である。

イ 古典学習に対する意識を高めるために、指導の在り方や「Gアップシート」の活用の在り方を、更に検討する必要がある。

以上のことから、課題は残るものの、「Gアップシート」を活用した手だての試案は有効であり、古典を理解する力を育むために効果があったと考える。また、「Gアップシート」を活用して、古文を正確に音読する活動や、作品に描かれた心情や情景などの内容を読み取ったりする活動に意欲的に取り組み、古人のものの見方や考え方、感じ方について理解を深められたと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、「Gアップシート」の授業における活用をとおして、古典を理解する力を育むための学習指導の在り方を明らかにし、中学校国語科における古典指導の改善に役立たせようとするものであった。そのため、中学校国語科において古典を理解する力を育むための基本構想を立案し、手だての試案に基づいた授業実践を行った。その結果、仮説の妥当性を確かめることができた。なお、本研究の成果として、次のようなことが得られた。

(1) 中学校国語科における古典を理解する力を育むための基本構想

中学校国語科における古典指導及び、古典を理解する力とこれを育むことの意義に関する基本的な考え方や、古典を理解する力を育むために「Gアップシート」を活用することの意義と学習指導の展開とを明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 基本構想に基づく実態調査及び調査結果の分析と考察

手だての試案を作成するために、古典の学習に対する意識調査を実施した。調査結果から明らかになったことを、手だての試案の作成に生かすことができた。

(3) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想と、意識調査の結果から明らかになった問題点と課題をふまえながら、手だての試案を作成した。「Gアップシート」を活用して古典を理解する力を育む学習指導案作成のための手だての試案にすることができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

古典を理解する力を育むために、「Gアップシート」を活用した手だての試案に基づいた授業実践を行った。実践結果の分析と考察により、古典を理解する力が育まれ、手だての試案の有効性を検証することができた。

(5) 中学校国語科における古典を理解する力を育むための研究のまとめ

中学校国語科において、古典を理解する力を育むための指導の在り方について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後更に生かすための課題として次のようなことが考えられる。

- (1) 「Gアップシート」をより有効に活用させるために、生徒の実態や実現状況に応じて、より効果的な場面において有効な活用の在り方となるような指導法を明らかにすること。
- (2) 「Gアップシート」を活用した指導を、他の古典教材でも実践して、古典を理解する力をより高める指導法を検討すること。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝申し上げます、結びのことばといたします。

【引用文献】

桑田泰佑・勝山謙一(1991)、「枕草子(春はあけぼの)」、『新学習指導要領中学校国語科の指導事例集(全5巻)第3巻「古典」の理解と表現』, 明治図書, p.71

【参考文献】

相澤秀夫(1996)、『中学校国語科課題学習・選択学習の事例集』, 明治図書

石田恒好・河野庸介(1994)、『中学校国語こうすればできる観点別評価の手順 データの集め方・判定の仕方』, 図書文化社

亀井浩明・佐野金吾・篠田信司(1993)、『中学校観点別評価の実際[国語編]』, 教育出版

規工川佑輔(1991)、『新しい国語の学習5「魅力ある古典の指導入門」』, 明治図書

北尾倫彦・金子守(2002)、『新観点別学習状況の評価基準表中学校・国語 単元の評価規準とABC判定基準』, 図書文化社

北尾倫彦・金子守(2004)、『新しい観点別評価問題集中学校国語』, 図書文化社

河野庸介(2003)、『中学校国語科目標に準拠した評価の実際』, 明治図書

柴田義松・鶴田清司・阿部昇(2006)、『あたらしい国語科指導法』, 学文社

須田実(1997)、「戦後五十年の古典学習の変遷と改善の方向」他の論文、『実践国語研究別冊小学校・中学校楽しく学び合う古典の学習 生きる力と智慧を学ぶ』, 全国国語教育実践研究会

人間教育研究協議会(2004)、『教育フォーラム33<確かな学力>を育てる』, 金子書房

藤岡完治・北俊夫(1997)、『新学力観のための評価と指導第1巻・第2巻』, ぎょうせい

尾澤厚子(1994)、「古文の基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方に関する研究 生徒個々のつまずきを克服させる学習活動の工夫を通して」, 『平成6年度岩手県立総合教育センター研究発表会資料』, 岩手県立総合教育センター

藤原正義(1990)、「古文入門期の読解力を高める指導に関する研究 ものの見方・考え方に視点を置いて」, 『平成2年度岩手県立総合教育センター研究発表会資料』, 岩手県立総合教育センター

【参考Webページ】

国立教育政策研究所 評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校)

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/houkoku/index_jh.htm

補 充 資 料

目 次

【資料 - 1】学習指導案	資 - 1
【資料 - 2】単元の計画と評価の計画表	資 - 3
【資料 - 3】単位時間の指導計画（1 / 5時間～5 / 5時間）	資 - 4
【資料 - 4】古文の学習に関わる意識調査用紙	資 - 9
【資料 - 5】意識調査用紙（事前）	資 - 10
【資料 - 6】意識調査用紙（事後）	資 - 11
【資料 - 7】意識調査の結果（ ² 検定）	資 - 12
【資料 - 8】事前・事後テスト問題用紙	資 - 13
【資料 - 9】Gアップシート	資 - 15
【資料 - 10】ヒントカード	資 - 20

【資料1】学習指導案

第3学年国語科学習指導案

実践期間 平成18年9月4日～9月15日
対象学級 雫石町立雫石中学校第3学年
4組 男子21名、女子16名、計37名
5組 男子21名、女子17名、計38名
指導者 教諭 小田 中 一

1 単元名

第4単元 古典を楽しむ 昔の人の思いや考え方をとらえ、古典を楽しむ

教材名 * 「音読を楽しもう『古今和歌集仮名序』」「君待つと 万葉・古今・新古今」

夏草 『おくのほそ道』から

学びて時にこれを習ふ 『論語』から

2 単元について

(1) 単元について

急速に国際化が進む現代社会において、国際交流を図るために諸外国に目を向けて、多くの知識情報を得ることが求められている。一方で、自国の文化や伝統を学び、大切にすることは重要である。日本には、はるか昔から祖先が育んできた多くの文化があり、私達はその恩恵を受けて現在まで生きてきた。私達が、祖先の使った言葉の意味やその言葉に込められた感情を理解し、古典の文章や和歌を鑑賞して、その美学や面白さを分かることは、古典を理解することであり、ひいては自分の心を豊かにしていくことでもある。

本単元では、三大和歌集において音読による古文調の調べに慣れ親しむことを中心にして、古典の調べをじっくり味わい、「おくのほそ道」では日本人の無常・はかなさを感じ取り、更に日本が多大な影響を受けた中国の古典として「論語」を鑑賞することで、古典に対する感性や資質を育てていきたい。

古典の学習をとらえて、昔の人のものの見方や考え方に触れることは、視野を広げ、幅広く社会や自己を見つめる上で有意義である。また、文体の特徴やリズム、現代と異なった表現などを知ること、その面白さに気づき、味わいながら読むことができれば、自分の生活に豊かさを加えたり、新たな発見をしたりすることもできる。そのために、繰り返し読むことを重視する指導を心がけ、解釈や歴史的背景などについても、生徒にとって身近に感じられるように工夫したい。そして、古典が日本人の伝統文化や人生観を今に伝えるものであり、そこに重要な価値があることを理解させるとともに、これまで受け継がれてきた古典を大切に思う気持ちを養いたい。

特に、三大和歌集の学習においては、我が国の古典に触れ、日本人に脈々と流れる伝統や自然観、ものの見方や考え方を学ばせたい。

(2) 教材について

万葉の昔から千数百年にわたって、日本人の心に受け継がれてきた和歌は、言語能力の中の想像力や感受力を養うのに役立つ教材である。本教材は、『古今和歌集』仮名序及び、日本三大和歌集である『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』から取り上げられた17首の和歌で構成されている。教材は、大きく「愛」と「自然」という二つのテーマにまとめられているととらえられる。それぞれの和歌にこめられた心情を中心に、描かれている情景の違いなどを読み取ることができ、また、『古今和歌集』仮名序を音読することで、表現や文体の特徴をとらえて読み味わわせることもできる。更に、和歌を鑑賞するだけでなく、読者としての生徒自身の思いを想像させ、表現させる活動に発展させることもできる教材である。本教材で、和歌の世界に浸り、昔の人の思いを想像しながら読み味わうことは、普遍的な人間の真実や、日本人に脈々と流れる美意識や感性に気づき、我が国の文化や伝統について関心を深めることにつながる。

和歌は五音・七音を基調とした定型詩であり、洗練された言葉遣いに触れると、古文が現在の日本語につながっていることや、古人が、現代の私達と同じようなことを考えたり感じたりしていたことが、確かなこととして感じられる。そして、千年以上も昔から続く我が国の文化や伝統が、自分の中にも間違いなく息づいているのだと改めて思い知る。古典の学習はそれに気づくことであり、ひいてはそれを大切なことと思い、次の世代に継承しようとする気持ちを、心に芽生えさせることである。こうした学習を積み重ねることで、中学校国語科のねらいとする「伝え合う力」や「豊かな言語感覚」、「国語を尊重する態度」などが養われるものと考えられる。

(3) 生徒について

本単元を指導するにあたり、古典の学習に対する生徒の意識を調査したところ、次のような結果が得られた。

古典学習の意義について、意義を理解している生徒の割合が56.7%、理解していない生徒の割合が43.3%であり、意義を感じている生徒が若干多いものの、ほぼ同程度の割合と見ることもできる。意義を理解している生徒は、学習への意欲が高く、古典学習の必要性を強く認識していることなどが、生徒が記述した内容から読み取れる。また、意義を感じていない生徒は、その理由として、「古典を使わないから」が圧倒的に多く取り上げられており、古典学習の意義を曲解していると推察される。

古典学習は、これまで段階を追って系統的に指導されてきている。また、韻文の学習に関しては、2年生の「短歌を味わう」で、五・七・五・七・七のリズムを体感する学習をしており、3年生では、俳句も学んでいる。本単元では、これまでの学習を踏まえ、古文に対する抵抗を取り除くように配慮したい。そして、内容の解釈のみを目的とするのではなく、それぞれの時代に生きた古人の思いを感じ取らせることをねらいとしたい。

(4) 指導について

古典学習における1年生の指導事項は、古典に対する興味・関心、古人の生活の理解といった「内容面」を主として取り上げ、2年生では、朗読・暗唱や語彙・表現といった「言語面」の比重を重くし、3年生では、両方の調和を図りながら昔の人の思想や心情に触れ、それについての自分の感想・意見をもたせるようにするという指導が、中学校古典学習として一般的に行われていることである。

私達は単に現在に存在しているのではなく、連続した過去からの時の流れの中で生きている。その意味を考えるために、昔の人のものの見方や考え方に触れ、現在の生き方を見つめ直すことは、これからの言語活動に有意義なものとなる。そのためには、比較的難解な古典の学習に、どれだけ興味や関心をもたせるかが課題である。そこで、全員参加の授業を展開し、今後の言語活動につなげたい。細かな技法の解説に深入りせず、原文を用いた訓読による古典独特の調べを味わわせ、作品の情景や作者の心情に迫らせたい。古典学習をとおして、現在に生きる自分自身を見つめ直すきっかけをつかめるように、指導していきたい。

指導にあたっては、日本人が好んだ五音・七音のリズムを体得できるように、繰り返し音読することを大切にしたい。その過程で、句切れや表現技法に触れながら、和歌を味わうような指導をしていきたい。また、発展学習として、「百人一首」を取り入れる。「百人一首」は、古来から和歌のバイブルとされ、生徒達の学習を深めるのに適した教材である。中学校古典学習では、内容を解釈することが主たる目的ではなく、親しみをもたせることが大切である。本教材では、和歌の細かな内容を理解することではなく、音読や朗読などをとおして楽しい古典学習ができ、和歌そのものにどれくらい心をひかれていくのかを第一の目的としたい。

和歌を鑑賞する上で大切なことは、古文の読みに慣れることである。古文のリズムをつかみ、自分の力で読めるようになることは、母国語としての日本語への関心を高めることにつながるとともに、古典の魅力を知ることにもなる。そこで、音読練習を繰り返すことで、リズムをつかませ、和歌に親しみをもたせたい。

3 単元の目標

(国語への関心・意欲・態度)

・古典を味わい、古人の人間や自然に対する思いに触れ、進んでイメージを広げたり深めたりする。

(話すこと・聞くこと)

・古典を読み、自分のものの見方や考え方を深め、話し言葉を豊かにする。

(書くこと)

・古典の洗練された文章を書き写すことにより、的確に書き表す能力を高める。

(読むこと)

・繰り返し音読して、情景や作者の心情をとらえる。

・教科書の脚注や資料等を手がかりにして大意をとらえ、作者が生活の中に見つけた美しさや感動を理解する。

(言語についての知識・理解・技能)

・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直すとともに、古典特有の表現方法を理解する。

4 単元の指導計画(全10時間)

第一次	・『古今和歌集』仮名序を読んで、表記の仕方や文章の特徴を理解する …………… (1時間)
	・教科書掲載の和歌を味わう …………… (3時間)
	・百人一首をとおして古典の世界を味わう …………… (1時間)
第二次	・『おくのほそ道』の解説や旅立ちを読んで内容や芭蕉について理解する …………… (1時間)
	・平泉の文章を読み、芭蕉の心情を味わう …………… (1時間)
	・全体を繰り返し音読し、芭蕉の人柄を読み取る …………… (1時間)
第三次	・漢文の特徴を理解し、繰り返し音読する …………… (1時間)
	・内容を読み取り、作者の心情をとらえる …………… (1時間)

【資料2】単元の計画と評価の計画表

国語科 単元の指導と評価の計画表 <第3学年>

単元四 教材名 「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」」(光村図書)

学習指導要領の内容 (指導事項)		指導と評価の計画			
<p>【第3 指導計画の作成と内容の取扱い(1)-(4)イ】 古典の指導については、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。その教材としては、古典に関心をもたせるように書いた文章、易しい文語文や格言・故事成語、親しみやすい古典の文章などを生徒の発達段階に即して適宜用いるようにすること。なお、指導に当たっては、音読を通して文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにし、文語における言葉のきまりについては、細部にとらわれず、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。 【読むこと-ア】文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に関与すること 【読むこと-ウ】表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと 【読むこと-エ】文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと 【読むこと-オ】目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に関与すること 【言語事項(1)-イ】慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意すること 【言語事項(1)-ウ】抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること 【言語事項(1)-カ】単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること</p>		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の効果的な使い方や理解して、語句の用い方がどのような効果を生んでいるかに目を向ける(読-ア) ・歴史的仮名遣いに注意して音読し、独特な言葉の響きやリズム、語調を味わうとともに、古典和歌の作品を、表現の特徴を押さえながら読み取る(読-ウ) ・「和歌」に対する昔の人々の思いをとらえ、人間や自然に対する考え方を理解するとともに、我が国の代表的な三大和歌集から幾つかの作品を読み、それぞれの時代の人々の自然や人間を愛する心、生活の中のさまざまな場面の細やかな感情を読み味わう(読-エ) ・三大和歌集の中からは、ものの見方や感じ方に着目して、好きな和歌を読み味わう(読-オ) ・歴史的仮名遣いや和歌のリズムに関心をもち、理解を深める(言(1)-ア) ・多様な語句の意味や用法に注意する(言(1)-イ) ・古語に対する理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにする(言(1)-ウ) ・助詞や助動詞の働きに注意する(言(1)-カ) 			
<p>評価の観点</p> <p>国語への関心・意欲・態度</p>		<p>読む能力</p> <p>言語についての知識・理解・技能</p>			
<p>評価規準() (単元)</p>		<p>十分満足</p> <p>努力を要する</p>			
<p>単位時間ごとの計画</p>		<p>具体的評価規準()・判断する具体的な姿()</p>			
第1時	<p>目 標</p> <p>古今集仮名序を正確に音読することができる</p> <p>学習内容</p> <p>1 全文音読 2 内容理解 3 音読発表会</p>	<p>1 古文に関心をもち、すすんで声に出して読もうとする</p> <p>1 古文について知っていること、学んだことなどを話したり書いたりしている</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>4 古文のリズムに気を付けて音読している</p> <p>4 古語や古文の特徴を意識して、つまらずに音読している</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>8 歴史的仮名遣いや古文のきまりについて理解している</p> <p>8 歴史的仮名遣いをほぼ理解し、古文のきまりのおおよそがわかっている</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>評価結果に応じた指導</p> <p>への指導</p> <p>4については、個人やグループで繰り返し読み返して読み進めるとともに、本時の中で個別に指導する</p> <p>8については、本時の中でヒントカードを参考にしながら取り組むように支援する</p>
第2時	<p>目 標</p> <p>『万葉集』を読み、心情や情景などの内容を読み取る</p> <p>学習内容</p> <p>1 和歌音読 2 内容理解 3 まとめ</p>	<p>2 和歌に詠まれた古人の生活やものの見方、考え方に興味をもち、内容を高めたい</p> <p>2 和歌を詠んで、古人の生活やものの見方、考え方について関心を向けている</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>5 和歌のリズムに気を付けて音読している</p> <p>5 五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがある</p> <p>5 和歌のリズムを乱さず読むこともある</p> <p>6 和歌に詠まれた心情や情景などの内容を、注釈や補説を手がかりにして読み取っている</p> <p>6 注釈や補説を参考にして、内容のおおよそを読み取っている</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>9 主語や述語などの省略された言葉を読み取る</p> <p>9 発問内容を理解して半分以下は答えられる</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p> <p>10 長歌・反歌・枕詞・係り結びの法則など、古典和歌の特徴や表現技法についての知識を得る</p> <p>10 古典和歌の特徴や表現技法の半分以上を理解している</p> <p>授業中・後 - (Gアップシート・学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>への指導</p> <p>5については、何度も音読させながらリズムに気を付けさせる</p> <p>6・9・10については、Gアップシートを活用して復習させる</p>
第3時	<p>目 標</p> <p>『古今和歌集』と『新古今和歌集』を読み、心情や情景などの内容を読み取る</p> <p>学習内容</p> <p>1 和歌音読 2 内容理解 3 まとめ</p>	<p>3 和歌をとおして、我が国の伝統文化について関心を深めている</p> <p>3 百人一首に取り組み、下の句を聴いて、該当する札を見つけようとしている</p> <p>授業中・後 - (学習プリント・観察・自己評価)</p>	<p>7 百人一首の読み手の読みを聴いて、復唱しながら取り札を探している</p> <p>7 自分の取った札を見て復唱し、その和歌の鑑賞をとおして、古典を楽しんでいる</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>11 百人一首を源平合戦で行う方法を理解している</p> <p>11 百人一首の取り札を、ほとんどお手つきしないで取っている</p> <p>授業中・後 - (観察・自己評価)</p>	<p>への指導</p> <p>7・11については、読み札の順序を考慮して、札が取れるように配慮する</p>
第4時	<p>目 標</p> <p>三大和歌集の特徴や代表的和歌を読み味わう</p> <p>学習内容</p> <p>1 和歌音読 2 内容理解 3 まとめ</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方と、自分のものの見方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方と、自分のものの見方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方と、自分のものの見方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	
第5時	<p>目 標</p> <p>百人一首に親しみ古典の世界を味わう</p> <p>学習内容</p> <p>1 方法理解 2 源平合戦 3 まとめ</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方と、自分のものの見方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方と、自分のものの見方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	<p>への指導</p> <p>和歌への興味を高めながら、他の和歌を読んで、古人のものの見方や考え方と、自分のものの見方や考え方を比較できるようにする</p> <p>古文全般に意欲的に取り組もうとする意識を高める</p>	
<p>観点ごとの総括</p>		<p>国語への関心・意欲・態度</p> <p>B: Gアップシート、学習プリント、自己評価のいずれかに、古典及び和歌に対する興味を示している様子が読み見られる</p> <p>A: 他の単元と合わせて総括する</p>			
<p>総括の仕方</p>		<p>読む能力</p> <p>B: Gアップシート(全5枚)の中の読み取りに関する設問が、6割正解している</p> <p>A: 8割以上正解している</p>			
<p>言語についての知識・理解・技能</p> <p>B: Gアップシート(全5枚)の中の言語事項に関する設問が、6割正解している</p> <p>A: 8割以上正解している</p>		<p>評価結果に応じた指導</p> <p>: 達成できなかったところを分析し、指導方法を改善するとともに、個別指導や補充学習を行う</p> <p>: 学級の4分の1ができていないところについては、次の教材で、学習形態を工夫して指導を行う</p> <p>個々に知らせる方法</p> <p>各自にGアップシートでの達成状況を知らせる</p>			

【資料3】単位時間の指導計画

単位時間の指導計画 1 / 5時間

単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」 (中3：光村図書)

目 標		・古今和歌集仮名序を正確に音読することができる<古典に親しむ段階>					
学習活動における具体的評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・「仮名序」の音読をとおして、言葉の響きやリズムに親しみ、和歌への関心を広げることができる	読 む 能 力 ・古文のリズムをつかみ、仮名遣いに注意して音読し、言葉の響きや調子を味わうことができる	言語についての知識・理解・技能 ・音読をとおして、助詞の省略や係り結び、対句などの古文の表現の特徴に気付くことができる			
段 階	時 間	指 導		評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方	
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判 断 する 具 体 的 な 姿 態		評 価 方 法
前 時	20 分	オリエンテーション	事前調査(『伊勢物語』第9段(東下り))に取り組む	・緊張感を和らげられるように配慮する ・設問の出来不出来に一喜一憂させない	・集中して真剣に取り組んでいる ・既習事項を想起して解答しようとしている	・学習プリント	
導 入	5 分	1 学習内容の確認 2 学習課題の把握	1 古典学習に対する既習事項を思い出し、これからの古典学習に向かう姿勢作りをする 2 古今和歌集仮名序の学習を行うことを理解する * 『古今和歌集』「仮名序」を正確に音読して、言葉の響きやリズムを味わおう	・1年生、2年生で学習した古典の内容を想起させ、これからの古典学習の見直しをもたせる ・和歌へのイメージや関心の程度を、自由に話せる雰囲気作りを心がける ・学習課題の提示(紙板書)	・古文学習への見直しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している	・観察 ・机間指導 ・学習プリント	
展 開	35 分	3 課題追究 1 4 課題追究 2 5 課題追究 3 6 課題追究 4 7 課題解決	3 言葉の響きやリズム、語調などに気を付けて原文を音読する 4 現代語訳を参考にして、原文のおおよその内容をとらえる 5 表現の特徴を理解する 6 表現の特徴を生かして音読する 7 発表会をする	・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど、変化を付けて、興味を持続させる指導をする ・和歌の本質を植物にたとえて説いている部分を探させる ・文末表現、対句、係り結び、助詞などについて、生徒の気づきを大切にしながら、適宜助言する ・個人読み、グループ読みの形態を工夫して、古文を読むことへの抵抗をなくし、言葉の響きやリズムに慣れさせる ・グループごとに発表させる ・発表後の評価の観点を示し、お互いに評価させる	・ヒントカードを参考にしてGアップシートに取り組んでいる ・範読を聴くとき、自分が音読することを意識して読めない漢字や歴史的仮名遣い にふりがなを付けている ・歴史的仮名遣いやリズムに気を付けてつまずきに音読している ・現代語訳を見たり、補説を聞いたりして、本文のあらましや表現の特徴のおおよそがわかる ・公平に分担を決めて音読練習し、その成果についてグループ毎に特徴ある音読にして表現している	・Gアップシート ・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	【古文を正確に音読する場面】における活用 ・「Gアップシート」 を活用して、歴史的仮名遣いの決まりを復習させた後に、範読で確認させる 追い読み、微音読、音読、発表へ発展的に読ませ、読むことに対する抵抗を減らしていく 評価結果に応じて補足説明したり、音読を繰り返したりして、正確に音読させる
終 末	10 分	8 学習のまとめと評価 9 次時予告	8 古今和歌集仮名序に表れている和歌の本質や力についてまとめる 9 次時の学習内容を知る	・本時の学習内容のまとめと同時に、学習態度及び、グループ発表の様子も評価する ・三大和歌集の概略に触れながら「君待つと」への導入と結び付ける	・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	

単位時間の指導計画 2 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」（中3：光村図書）

目 標		・『万葉集』を読み、心情や情景などの内容を読み取ることができる<古典を楽しむ段階>					
学習活動における具体的評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・音読をとおりて和歌のリズムを楽しみ、和歌に対する興味や関心を高めることができる		読 む 能 力 ・和歌の大意をとらえて音読し、語句や表現、リズムなどに注意することができる ・万葉集の代表作品について、昔の人の思いや情景などの内容を読み取ることができる		言語についての知識・理解・技能 ・古典和歌の表現技巧について理解することができる	
段 階	時 間	指 導		評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方	
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判断する具体的な姿	評 価 方 法	
導 入	5分	1 前時学習内容の想起 2 学習内容の確認 3 学習課題の把握	1 前時の学習内容を想起する 2 『万葉集』に掲載された和歌について学習することを確認する 3 本時の学習課題を知る * 『万葉集』の代表作品を音読して、和歌に詠まれた心情や情景を読み取る	・古今和歌集仮名序の音読の様子を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・教科書に掲載された和歌に目を向けさせ、学習の見通しをもたせる ・学習課題の提示(紙板書)	・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している	・観察 ・机間指導 ・学習プリント	
展 開	35分	4 課題追究1 5 課題追究2 6 課題追究3 7 課題解決	4 出典を参考にしながら、万葉集についての基礎的事項をまとめる 5 教科書に掲載された9首の和歌を、言葉の響きやリズム、語調などに気を付けて音読する 6 それぞれの和歌に詠まれた心情や情景を、脚注や補足説明を参考にして、次の点を中心に理解する (1)「春過ぎて…」：句切れ、体言止め、助詞省略 (2)「東の…」：語句(ひむかし、かぎろひ) (3)「天地の…・田児の浦ゆ…」：長歌と反歌、格助詞「ゆ」、係り結び (4)「憶良らは…」：句切れ、推量の助動詞「らむ」 (5)「君待つと…」：助詞省略、語句(君) (6)「多摩川に…」：語句(東歌)、リズム、句切れ (7)「父母が…」：語句(防人)、係り結び (8)「新しき…」：体言止め、作者、リズム 7 学習内容をふりかえり、内容を確認する 8 答え合わせをして、達成状況を確認する	・成立年代、巻数、首数、主な作者などについて、必要な範囲でまとめさせる ・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど変化を付けて、興味を持続させる ・読みの抵抗を減らす工夫をする ・大意把握、助詞の省略、係り結びの法則、語句の意味などについて、ポイントを絞りながら補足説明する ・補助資料を提示する ・和歌を取り上げる順序を、次のストーリーに従って扱う * 暮らしの中の思いを掴む <東歌、防人歌、山上憶良> * 情景を読み取る <持統天皇、人麻呂、赤人> * 心情を読み味わう <額田王、大伴家持> ・Gアップシートに取り組みさせる	・出典を参考に、プリントに記入している ・五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがあるときもリズムを乱すときもある <評価結果に応じて、何度も音読させながらリズムに気を付けさせる> ・注釈や補説を参考にして、それぞれの内容のおおよそを読み取っている ・古典和歌の特徴や表現技巧について、そのおおよそを理解している ・Gアップシートに真剣に取り組み、既習事項をふりかえっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 ・Gアップシート	前時のGアップシート(拡大コピー)を掲示しておく 【作品に描かれた心情や情景などの内容を確認する場面】における活用 ・「Gアップシート」 (『万葉集』の既習和歌を取り上げて再構成したGアップシート)を活用して、作品に描かれた心情や情景などの内容を読み取らせ、達成状況を確認する 読み取りの不十分な設問について、解説を加える
終 末	10分	8 学習のまとめと評価 9 次時予告	9 学習内容をまとめる 10 次時の学習内容を知る	・本時の学習内容のまとめと自己評価をさせる ・『古今和歌集』『新古今和歌集』の学習に、意欲をもたせる	・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	

単位時間の指導計画 3 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」 (中3：光村図書)

目 標		・『古今和歌集』と『新古今和歌集』を読み、心情や情景などの内容を読み取ることができる<古典を楽しむ段階>					
学習活動における具体的評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・音読をとおして和歌のリズムを楽しみ、和歌に対する興味や関心を高めることができる		読 む 能 力 ・和歌の大意をとらえて音読し、語句や表現、リズムなどに注意することができる ・古今和歌集と新古今和歌集の代表的作品について、昔の人の思いや情景などの内容を読み取ることができる		言語についての知識・理解・技能 ・古典和歌の表現技巧について理解することができる	
段 階	時 間	指 導		評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方	
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判 断 する 具 体 的 な 姿	評 価 方 法	
導 入	5分	1 前時学習内容の想起 2 学習内容の確認 3 学習課題の把握	1 前時の学習内容を想起する 2 『古今和歌集』と『新古今和歌集』に掲載された和歌について学習することを知る 3 本時の学習課題を知る * 『古今和歌集』と『新古今和歌集』の代表作品を音読して、和歌に詠まれた心情や情景を読み取る	・万葉集を学習したときの様子を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・教科書に掲載された和歌に目を向けさせ、学習の見通しをもたせる ・学習課題の提示(紙板書)	・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している	・観察 ・机間指導 ・学習プリント	
展 開	35分	4 課題追究 1 5 課題追究 2 6 課題追究 3 7 課題解決	4 出典を参考にしながら、古今和歌集と新古今和歌集についての基礎的事項をまとめる 5 教科書に掲載された8首の和歌を、言葉の響きやリズム、語調などに気を付けて音読する 6 それぞれの和歌に詠まれた心情や情景を、脚注や補足説明を参考にして、次の点を中心に理解する (1)「人はいさ…」: 句切れ、係り結び、語句意(人、ふるさと、花) (2)「しら露の…」: 色彩の対比 (3)「思ひつつ…」: 語句(夢)、句切れ (4)「飛鳥川…」: 句切れ、語句(飛鳥川、よみ人しらず) (5)「花さそふ…」: 句切れ、語句(花)、倒置法 (6)「道の辺に…」: 助詞省略、句切れ、係り結び、作者 (7)「見わたせば…」: 句切れ、体言止め、幽玄の美、三夕の歌 (8)「玉の緒よ…」: 情景と心情、句切れ 7 学習内容をふりかえり、内容を確認する 8 答え合わせをして、達成状況を確認する	・成立年代、巻数、首数、主な作者などについてまとめさせる ・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど、変化を付けて、興味を持続させる指導をする ・読みの抵抗を減らす工夫をする ・大意把握、助詞の省略、係り結びの法則、語句の意味などについて、ポイントを絞りながら補足説明する ・補助資料を提示する ・和歌を取り上げる順序を、次のストーリーに従って扱う * 季節感を読み味わう <紀貫之、藤原敏行> * 恋愛感情を読み味わう <小野小町、「飛鳥川…」> * 自然美の情趣を掴む <藤原定家、宮内卿> * 情景から心情を読み取る <式子内親王、西行法師> ・Gアップシートに取り組ませる	・出典を参考に、プリントに記入している ・五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがあるとリズムを乱すときもある <評価結果に応じて、何度も音読させながらリズムに気を付けさせる> ・注釈や補説を参考にして、それぞれの内容のおおよそを読み取っている ・古典和歌の特徴や表現技巧について、そのおおよそを理解している	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 ・Gアップシート	前時までに活用したGアップシート(拡大コピー)を掲示しておく 【作品に描かれた心情や情景などの内容を確認する場面】における活用 ・「Gアップシート」 (『古今和歌集』・『新古今和歌集』の既習和歌を取り上げて再構成したGアップシート)を活用して、作品に描かれた心情や情景などの内容を読み取らせ、達成状況を確認する 読み取りの不十分な設問について、解説を加える
終 末	10分	8 学習のまとめと評価 9 次時予告	9 学習内容をまとめる 10 次時の学習内容を知る	・本時の学習内容のまとめと自己評価をさせる ・次時の学習に意欲をもたせる	・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている	・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価	

単位時間の指導計画 4 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」（中3：光村図書）

目 標		・三大和歌集の特徴や代表的和歌を読み味わうことができる<古典を楽しむ段階 >					
学習活動における具体的な評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・和歌をととして古人の生活やものの考え方に興味を向けることができる		読 む 能 力 ・和歌の大意をとらえて音読し、語句や表現、リズムなどに注意することができる ・作者の心情や作品の情景について理解することができる		言語についての知識・理解・技能 ・古典和歌の表現技巧について理解することができる	
段 階	時 間	指 導			評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判断する具体的な姿	評 価 方 法	
導 入	5分	1 前時学習内容の想起	1 前時の学習内容を想起する	<ul style="list-style-type: none"> ・三大和歌集をととして学習してきた内容を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・学習の見通しを明確にさせ、意欲的に取り組ませる ・学習課題の提示(紙板書) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・机間指導 ・学習プリント 	
		2 学習内容の確認	2 三大和歌集を発展させた学習に取り組むことを確認する				
3 学習課題の把握	3 本時の学習課題を知る *好きな和歌を一首選んで朗読しよう *教科書掲載以外の和歌の心情や情景を味わおう						
展 開	35分	4 課題追究 1	4 三大和歌集の教科書掲載和歌を音読する	<ul style="list-style-type: none"> ・範読、斉読、黙読、微音読、追い読みなど、変化を付けて、興味を持続させる指導をする ・読みの抵抗を減らす工夫をする ・古人発表を基本として、場合によってはペアで発表する ・発表後の評価の観点を示し、お互いに評価させる ・Gアップシートに取り組ませる ・机間指導を行うとともに、場合によってはグループ学習で取り組ませる ・生徒の発言をたくさん取り入れながら、適宜補足説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ・五七五七七の五句を意識して読めるが、字余りなどがあるとリズムを乱すときもある ・<評価結果に応じて、何度も音読させながらリズムに気を付けさせる> ・注釈や補説を参考にして、それぞれの内容のおおよそを読み取っている ・古典和歌の特徴や表現技巧について、そのおおよそを理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 ・Gアップシート 	<p>【学習内容の理解や定着の状況を確認する場面】における活用</p> <p>・「Gアップシート」</p> <p>初見の和歌で構成されたGアップシートを活用して、これまでの学習内容の理解や定着の状況を確認する</p> <p>理解や定着の不十分な設問について、解説を加える</p>
		5 課題解決 1	5 心に響いた和歌を朗読する				
		6 課題追究 2	6 教科書掲載和歌以外の和歌について、情景や心情を味わう				
		7 課題解決 2	7 Gアップシートの答え合わせをする				
終 末	10分	8 学習のまとめと評価	8 今までの学習についてまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・三大和歌集を総括的にまとめる ・自己評価をさせる ・発展学習として百人一首に取り組むことを知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 	
		9 次時予告	9 次時の学習内容を知る				

単位時間の指導計画 5 / 5時間 単元四 教材名：「音読を楽しもう『古今和歌集「仮名序」』・「君待つと」「万葉」・「古今」・「新古今」（中3：光村図書）

目 標		・百人一首に親しみ、古典の世界を味わうことができる<古典を味わう段階>					
学習活動における具体的評価規準		国語への関心・意欲・態度 ・百人一首をとおして、当時の人々の暮らしに思いを巡らすことができる		読 む 能 力 ・和歌の語句や表現、リズムに注意して、読み慣れることができる		言語についての知識・理解・技能 ・表現の仕方や特徴に注意して、日本語の移り変わりを知らることができる	
段 階	時 間	指 導			評 価		「Gアップシート」を活用する方法と結果の見取り方
		学 習 過 程	生 徒 の 活 動	教 師 の 支 援	判断する具体的な姿	評 価 方 法	
導 入	5分	1 前時学習内容の想起	1 前時の学習内容を想起する	<ul style="list-style-type: none"> ・三大和歌集をとおして学習してきた内容を振り返らせる ・本時への意欲づくりにつなげる ・学習の見通しを明確にさせ、意欲的に取り組ませる ・学習課題の提示(紙板書) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、本時の学習への見通しをもっている ・本時の学習内容を学習プリントに記入している 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・机間指導 ・学習プリント 	
		2 学習内容の確認	2 三大和歌集を発展させた学習に取り組むことを確認する				
3 学習課題の把握	3 本時の学習課題を知る *百人一首をとおして和歌の魅力を味わおう						
展 開	35分	4 課題追究1	4 源平合戦のルールを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・厳密なルールではなく、百人一首に親しむ上で必要な、最低限のルールを提示する ・グループの人間関係に配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・源平合戦のルールがわかり、意欲的に取り組もうとしている ・読み札の下の句までを聞いて、該当する取り札を探している ・ほとんどお手つきすることなく取り札を取り、自分の取った札を見て復唱し、和歌を鑑賞している ・百人一首をとおして古典の世界を楽しんでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・観察 ・学習プリント 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アップシート」を掲示(拡大コピー)して、歴史的仮名遣いや表現技法などについて再確認させる
		5 課題追究2	5 グループ毎に源平合戦を行う				
		6 課題解決	6 百人一首をとおして感じたことや思ったことなどを発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントにメモ程度で書かせた後に発表させる 			
終 末	10分	7 学習のまとめと評価	7 今までの和歌の学習についてまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の学習を総括的にまとめる(百人一首のみに固執しない) ・夏草「おくのほそ道」の学習に取り組むことを知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を集中して真剣にまとめている ・次時の学習内容に対する意欲をもっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・観察 ・学習プリント ・自己評価 	
		8 次時予告	8 次時の内容を知る				
後 時	20分	ふりかえり	事後調査(『伊勢物語』「第9段(東下り)」)に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張感を和らげられるように配慮する ・設問の出来不出来に一喜一憂させない 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して真剣に取り組んでいる ・既習事項を想起して解答しようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント 	

【資料4】古文の学習に関わる意識調査用紙

古文の学習に関する意識調査

3年 組 番 名前〔 〕

この調査は、古文の学習に対するみなさんの様子をたずねるために行うもので、成績には関係ありません。自分の考えに一番近いものを一つ選んで記号に を付け、それを選んだ理由も書いてください。

1 あなたは、古文を学習することは大切だと思いますか。理由も書いてください。

ア 思う イ 少し思う ウ あまり思わない エ 思わない

記号	理	由

2 これまでの古文の学習で、あなたは、どのような学習のときに意欲的に取り組むことができましたか。

2つ選び、その理由も簡単に書いてください。

ア 歴史的仮名遣い イ 昔の言葉の意味 ウ 話の内容の理解 エ 音読・朗読や暗唱

オ 昔の人の生活や考え方 カ 現代語訳と原文の対比 キ 視写 ク その他()

記号	理	由

3 これまでの古文の学習で、あなたは、どのような学習のときに意欲的に取り組むことができませんでしたか。

2つ選び、その理由も簡単に書いてください。

ア 歴史的仮名遣い イ 昔の言葉の意味 ウ 話の内容の理解 エ 音読・朗読や暗唱

オ 昔の人の生活や考え方 カ 現代語訳と原文の対比 キ 視写 ク その他()

記号	理	由

ご協力ありがとうございました。

【資料5】意識調査用紙(事前)

古文の学習に関する問題(事前)

3年 組 番 名前〔 〕

この問題は、これからみなさんと古文の学習を進めていく上で、どのような学習が望ましいかについて知るために行うものです。テストではありませんから、成績には一切関係ありません。みなさんは、自分の考えに最も近いと思うものを一つ選んで、をつけてください。

<古文の特徴理解>

- 1 あなたは、古文の特徴(歴史的仮名遣いのきまり・語句の意味・文法など)を知っていますか。
ア 知っている イ だいたい知っている ウ あまり知らない エ 知らない

<古文の内容理解>

- 2 あなたは、古文を読むとき、内容(心情や情景・作者の思いなど)を想像してみようと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<音読(一人読み)>

- 3 あなたは、古文を「一人で」読むとき、文章のリズムに気をつけて読もうと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<音読(一斉読み)>

- 4 あなたは、古文を「みんなで」読むとき、文章のリズムに気をつけて読もうと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古人の考え方の理解>

- 5 あなたは、古文の学習で昔の人の様子(暮らしや考え方など)を知ることが楽しいと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古人からの学び>

- 6 あなたは、古文の学習から学ぶことがたくさんあると思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<考え方の比較>

- 7 あなたは、古文の学習で昔の人と自分のものの見方や考え方を比べますか。
ア 比べる イ 比べることが多い ウ 比べないことが多い エ 比べない

<学習内容の活用>

- 8 あなたは、教科書で学んだことを、他の古文で確かめてみることは必要なことだと思いますか。
ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<学習内容の復習>

- 9 あなたは、授業で学んだことを、もう一度やりますか。
ア やる イ やるほうだ ウ やらないほうだ エ やらない

<古文学習への思い>

- 10 これから学習する古文の授業に対するあなたの考えを自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました

【資料6】意識調査用紙(事後)

古文の学習に関する問題(事後)

3年 組 番 名前〔 〕

この問題は、みなさんと古文の学習を進めてきた方法が、望ましいものであったかどうかについて知るために行うものです。テストではありませんから、成績には一切関係ありません。みなさんは、自分の考えに最も近いと思うもの一つを選んで、つけてください。

<古文の特徴理解>

1 あなたは、今回の授業をふりかえって、古文の特徴(仮名遣いのきまり・語句の意味・文法など)を理解できましたか。

ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<古文の内容理解>

2 あなたは、今回の授業を振り返って、古文の内容(心情や情景・作者の思いなど)が理解できましたか。

ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<音読(一人読み)>

3 あなたは、古文を「一人で」読む場面で、文章のリズムに気をつけて読むことができましたか。

ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<音読(一斉読み)>

4 あなたは、古文を「みんなで」読む場面で、文章のリズムに気をつけて読むことができましたか。

ア できた イ できたほうだ ウ できないほうだ エ できない

<古人の考え方の理解>

5 あなたは、古文の学習で昔の人の様子(暮らしや考え方など)を知ることが楽しいと思いませんか。

ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古人からの学び>

6 あなたは、古文の学習から学ぶことがたくさんあると思いませんか。

ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<考え方の比較>

7 あなたは、古文の学習で昔の人と自分のものの見方や考え方を比べますか。

ア 比べる イ 比べるほうだ ウ 比べないほうだ エ 比べない

<学習内容の活用>

8 あなたは、教科書で学んだことを、他の古文で確かめてみることは必要なことだと思いますか。

ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<学習内容の復習>

9 あなたは、授業で学んだことを、もう一度やりますか。

ア やる イ やるほうだ ウ やらないほうだ エ やらない

<Gアップシート活用に関する有用感・有効性・取り組み方>

10 あなたは、Gアップシートに進んで取り組もうとしましたか。

ア した イ したほうだ ウ しなかったほうだ エ しなかった

11 Gアップシートは、古文を学習するために役立ちましたか。

ア すごく役立った イ 役立った ウ 役立たなかった エ 全く役立たなかった

12 Gアップシートは、和歌の内容を読み取ることに効果があったと思いませんか。

ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

13 Gアップシートに取り組む時間は十分でしたか。

ア 十分 イ ほぼ十分 ウ 少し足りなかった エ 足りなかった

14 Gアップシートは、取り組みやすいシートだと思いませんか。

ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない

<古文学習への思い>

15 今回の古文の授業で、あなたが感じたり考えたりしたことを自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました

【資料7】意識調査の結果(2検定)

事前事後意識調査結果		事後P 2					2値	有意差
		事後P 2						
		ア	イ	ウ	エ	計		
設問1 古文の特徴理解	あなたは、古文の特徴(歴史的仮名遣い・語句の意味・文法など)を<知っていますか*理解できましたか> ア 知っている・できた イ だいたい知っている・できたほうだ ウ あまり知らない・できないほうだ エ 知らない・できない	事前P 1	ア	23	0	23	40.00	*
			イ	40	1	41		
			ウ					
			エ					
			計					
設問2 古文の内容理解	あなたは、古文を読むとき内容(心情や情景・作者の思いなど)を<想像してみようと思いますか*理解できましたか> ア 思う・できた イ 思うほうだ・できたほうだ ウ 思わないほうだ・できないほうだ エ 思わない・できない	事前P 1	ア	36	1	37	22.15	*
			イ	25	2	27		
			ウ					
			エ					
			計					
設問3 音読(一人読み)	あなたは、古文を「一人で」読むとき、文章のリズムに気をつけて<読もうと思いますか*読むことができましたか> ア 思う・できた イ 思うほうだ・できたほうだ ウ 思わないほうだ・できないほうだ エ 思わない・できない	事前P 1	ア	27	1	28	27.13	*
			イ	30	6	36		
			ウ					
			エ					
			計					
設問4 音読(斉読み)	あなたは、古文を「みんなで」読むとき、文章のリズムに気をつけて<読もうと思いますか*読むことができましたか> ア 思う・できた イ 思うほうだ・できたほうだ ウ 思わないほうだ・できないほうだ エ 思わない・できない	事前P 1	ア	44	2	46	11.84	*
			イ	17	1	18		
			ウ					
			エ					
			計					
設問5 古人の考え方の理解	あなたは、古文の学習で昔の人の様子(暮らしや考え方など)を知ることが楽しいと思いますか ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない	事前P 1	ア	41	3	44	7.12	*
			イ	14	6	20		
			ウ					
			エ					
			計					
設問6 古人からの学び	あなたは、古文の学習から学ぶことがたくさんあると思いますか ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない	事前P 1	ア	41	3	44	8.00	*
			イ	15	5	20		
			ウ					
			エ					
			計					
設問7 考え方の比較	あなたは、古文の学習で昔の人と自分のものの見方や考え方を比べますか ア 比べる イ 比べることが多い ウ 比べないことが多い エ 比べない	事前P 1	ア	25	3	28	13.50	*
			イ	21	15	36		
			ウ					
			エ					
			計					
設問8 学習内容の活用	あなたは、教科書で学んだことを、他の古文で確かめてみることは必要なことだと思いますか ア 思う イ 思うほうだ ウ 思わないほうだ エ 思わない	事前P 1	ア	26	3	29	15.38	*
			イ	23	12	35		
			ウ					
			エ					
			計					
設問9 学習内容の復習	あなたは、授業で学んだことを、もう一度やりますか ア やる イ やるほうだ ウ やらないほうだ エ やらない	事前P 1	ア	22	0	22	23.00	*
			イ	23	19	42		
			ウ					
			エ					
			計					

次の古文を読んで、後の各問いに答えなさい。

① 昔、男ありけり。その男、身をえつなきものに思ひなして、「京にはあらず、東の方に住むべき国求めに。」とて行きけり。もとより友とする人、一人一人して行きけり。道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。

② 三河の国八橋といふ所に至りぬ。そこを八橋と言ひけるは、水ゆく川の蜘蛛手なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋と言ひける。その沢のほとりの木の陰の下りぬて、乾飯食ひけり。

その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、かきつばた、といふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠めと言ひければ、詠める。

A 唐衣きつつなれにしましあればはるるきぬる旅をしぞ思ふ
と詠めりければ、みな人、乾飯の上に涙落としてほとびにけり。

③ 行き行きて駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入らむとする道はいと暗う細きに、つた、かへでは茂り、もの心細く、すすろなるめを見ることと思ふに、修行者会ひたり。「かかる道は、いかでかいまする。」と言ふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。

B 駿河なるつつの山辺のつつにも夢にも人にあはぬなりけり
富士の山を見れば、五月のつこもりに、雪いと白う降れり。

C 時知らぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ
その山は、ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ねあげたらむほどして、なりは塩尻のやうになむありける。

④ なほ行き行きて、武蔵の国と下総の国との中にいと大きな川あり。それをすみだ川と言ふ。その川のほとりに群れ居て、思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかな、とわびあへるに、渡し守、「はや舟に乗れ、日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて渡らむとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。

さる折しも、白き鳥の、嘴と脚と赤き、鳴の大きさなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ。京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ都鳥。」と言ふを聞きて、

D 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと
と詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。

三年	国語	Gアップシート	読古1	解答
----	----	---------	-----	----

組 番・氏名

古典（和歌）に挑戦しよう

・「万葉集」に詠まれた思いや情景を理解することができると、次の和歌を読んで、あとの各問いに答えなさい。

<p>A 春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山 持統天皇</p>	<p>B 東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ 柿本人麻呂</p>	<p>C 天地の 分かれし時ゆ 神さびて 高く貴き駿 山部赤人 河なる 布土の高嶺を 天の原 振り放け見れば 渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず 白 雲も い行きはばかり 時しくそ 雪は降りける 語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 不尽の高嶺は</p>	<p>D 田児の浦ゆち出でて見れば真白にそ不尽の高嶺 に雪は降りける 反歌</p>	<p>E 憶良らは今は罷らむ子泣くらむそを負ふ母も吾を 待しむむそ 山上憶良</p>	<p>F 君待つと吾が恋ひをれば我が屋戸のすだれ動かし 秋の風吹く 額田王</p>	<p>G 多摩川にさらす手作りさらさら何そこの泥のこ こた愛しき 東歌</p>	<p>H 父母が頭かき撫で幸くあれていひし言葉せ忘れか ねつる 防人歌</p>	<p>I 新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉 事 大伴家持</p>
--	---	---	---	--	---	---	---	--

問一 Aの和歌について、作者は、何を見て「夏来たるらし」と感じ取ったのか。和歌中の言葉四字を書き抜きなさい。

「白栲の衣」

問二 Bの和歌について、この和歌に合う評を、次から一つ選び、記号に を書きなさい。

- ア しじみじとして細やか
- イ 堂々として力強く雄大
- ウ のどかで温かい雰囲気
- エ あかるくさわやかな感じ

問三 C及びDの和歌中 線部「分かれし時ゆ」の「ゆ」と、「田児の裏ゆ」の「ゆ」とは、意味が異なる。それぞれの意味を書きなさい。

C「分かれし時 から」

D「田児の浦 を通って」

問四 Eの和歌からどんなことが感じられるか。次から一つ選び、記号に を書きなさい。

- ア 仲間と集まって語る楽しさ
- イ 親子が引き裂かれる悲しさ
- ウ 家族のことを思う温かい心
- エ 遠いところで暮らす寂しさ

問五 Fの和歌は、どのような歌い方といえるか。次から一つ選び、記号に を書きなさい。

- ア 隠すことなく 率直に自分の恋心を歌う
- イ 技巧を用い、自分の恋心を客観的に歌う
- ウ 自分の恋心を隠して、屈折した形で歌う
- エ 自分の恋心を、事実を誇張した形で歌う

問六 Gの和歌は、「東歌」であるが、東国地方の歌であることは、どの言葉からわかるか。和歌の中から書き抜きなさい。

「多摩川」

問七 Hの和歌は、「父母」が作者に何と言ったのか。和歌中の言葉四字を書き抜きなさい。

「幸くあれ」

問八 Iの和歌について、「新しき年の始めの初春の今日」とは、何月何日ですか。

「一月一日」

三年	国語	Gアップシート	読古2	解答
----	----	---------	-----	----

組 番・氏名

古典(和歌)に挑戦しよう

・「古今和歌集」「新古今和歌集」に詠まれた思いや情景を理解することができる。
次の和歌を読んで、あとの各問いに答えなさい。

A 人はいさ心も知らずふるなとは花ぞ昔の香にこほひける
紀貫之

B しら露の色はひとつをいかにして秋の木の葉をちぢにそむらむ
藤原敏行

C 思いつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせばきめむらましを
小野小町

D 飛鳥川湍は瀬になる世なりとも思ひ人は忘れじ
よみ人しらす

E 花さそふ比良の山風吹きにけりこぞ行く舟の跡みゆるまど
宮内卿

F 道の辺に清水流るる柳かげしばしとてこそたちどまりつれ
西行法師

G 見たたせば花ももみぢもなかりけり浦の昔屋の秋の夕暮れ
藤原定家

H 玉の緒よ絶えなば絶えながらへば忍びぬることのよわりもぞする
式子内親王

問一 Aの和歌の 線部「そ……ける」に用いられている文法上のきまりは何が書きなさい。

「係り結びの法則」

問二 Bの和歌において、「ひとつ」と対照的に使われている言葉を、和歌の中から書き抜きなさい。

「ちぢ」

問三 Cの和歌の 線部「人」とはどんな人が。次から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア 深く心に思つ人
- イ ごく身近な親しい人
- ウ 少し気になる人
- エ 物語に登場する人

問四 Dの和歌は、どんな心情を歌っているか。次から一つ選び、記号に書きなさい。

- ア 好きな人をあきらめた寂しい思い
- イ 好きな人を愛するひたむきな恋心
- ウ 好きな人から愛を告白された驚き
- エ 飛鳥川が好きだった人への愛の心

問五 Eの和歌に詠まれている「花」は、何の花か。

「桜」

問六 Fの和歌の中から、涼感を感じさせる言葉を二つ書き抜きなさい。

「清水と柳かげ」

問七 Gの和歌は、何句切れか答えなさい。

「三句切れ」

問八 Hの和歌の 線部「玉の緒」の意味を書きなさい。

「わたしの命」

三年	国語	Gアップシート	読古A	解答
----	----	---------	-----	----

組 番・氏名

古典（古文の基礎）に挑戦しよう

・歴史的仮名遣い及び古文の特徴を理解することができよう
 次の文を読んで、あとの各問いに答えなさい。

一	学校生活のおもいで。
二	犬がえさをくはへている。
三	庭に花をうまぬ。
四	六時にクラブ活動がをはる。
五	お年玉をいっぴいもらった。
六	本をとめる。
七	けふは私の誕生日です。
八	あつさまの耳はロバの耳。
九	グラフとへうに書いて示す。
十	彼女はしぶじを習っている。
十一	おやつのときをおくわしを喰べる。
十二	祖母にせりつりを買ってもらった。
A	小僧あり。（小僧 いた。）
B	日いまだ暮れず。（日 まだ暮れない。）
C	散ればこそいとど桜はめでたけれ……
D	……とむむ読みたりける
E	頭は尼とぞなるはの、目上 <small>の</small> おほ入る
F	殿上 <small>の</small> 装束きたてられて……
G	今はとて天の羽衣着るをりぞ君をあはれ と思ひこぼける

問一 上の一から十二の各文の 線部を、それぞれ現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

- 一 「おもいで」
- 二 「くわえて」
- 三 「うえる」
- 四 「おわる」
- 五 「いっばい」
- 六 「とじる」
- 七 「きょう」
- 八 「おつさま」
- 九 「ひょう」
- 十 「しゅうじ」
- 十一 「おかし」
- 十二 「せりり」

問二 上のAとBの古文を（ ）のよつに現代語訳したとき、に入る言葉を、それぞれ書きなさい。

- A 「小僧 が いた。」
- B 「日 は まだ暮れない。」

問三 上のCとDの古文で、線を引いた部分に用いられている法則が何か書きなさい。

「係り結び」の法則

問四 上のEとFの古文で、線を引いた「の」は現代文では共通して別の助詞に変わります。それをひらがな一字で書きなさい。

「 が 」

問五 Gの和歌を、五句に分けるととき、どこで切れるか。各句の切れ目「」を書きなさい。

「今はとて一天の羽衣一着る
 をりぞ一君をあはれと思
 ひいでける」

古典(和歌)に挑戦しよう

・和歌の特徴と「万葉集」に詠まれた思いや情景とを理解することが出来る。
次の和歌を読んで、あとの各問いに答えなさい。

A 石びしる垂水の上のそわらびの萌え出する
春になりけるかも 志貴皇子

岸の上を激しく流れ落ちる滝のほとりのわらびが芽を出し春になったなあ。

B タサれば小倉の山に鳴く鹿は今夜は鳴かず
い寝にけりしも 舒明天皇

夕方になると、いつも小倉の山で鳴く鹿が、今夜は鳴かない。もう寝てしまっただけいなあ。

C 瓜食めば子ども思ほゆ栗食めばまして徳は
ゆ何処より来たりしものそ眼交にもとな懸
かりて安眠し寝をぬ 山上憶良

瓜を食べると子どもが自然と思われ、栗を食べると、いつも子どもがいてくわわめめ。いつた、子どもはどこからやって来たものか。子どもが目の前にできごころをうつつい、私に安眠をみせてねえ。

D 銀も金も玉も何せむにまなれる子にしか
めちも 山上憶良

銀も金も珠玉も貴いものであるけれど、どっしり優れた宝のある子どもに及ぼるか。いや、及びしない。子どもこそが一番の宝であらう。

E 韓衣裾に取りつき泣く子を置きてそ来ぬ
や母なしにして 防人歌

衣服の裾に取りすがって泣く子どもたちを置いてきてしまったなあ。その子どもの母親もいないの。

【キーワード】
イ 鎌倉時代初期
ハ 平安時代初期
ホ 約二千首
ト 紀貫之
リ 大伴家持
ル たをやめぶり

ロ 奈良時代後期
ニ 約四千五百首
ヘ 約千首
チ 藤原定家
ヌ ますらをぶり
ヲ 幽玄・有心

問一 Aの和歌について

(1) 用いられている表現技法を、次から二つ選び、記号に書きなさい。

ア 倒置法
イ 字余り
ウ 体言止め
エ 対句

(2) 作者に春の訪れを感じさせたものを、歌の中から抜き出して書きなさい。

「(な) わらび」

問二 Bの和歌について

(1) この和歌は、何句切れの和歌が書きなさい。

「四句切れ」

(2) この和歌の調子は、「五七調」「七五調」のうちどちらなのか書きなさい。

「五七調」

問三 Cのうちの「五七五七……七七七七」の形式で作られた和歌を何とていつか書きなさい。

「長歌」

問四 Dの和歌は、Cの和歌の後に添えられる和歌ですが、この和歌を、特に何とていつか書きなさい。

「反歌」

問五 Eの和歌について、「泣く子」は、なぜ泣いているのか書きなさい。

「例 父親と別れるのが辛いから」

問六 上の【キーワード】に書かれているものの中から、『万葉集』に関係のあるものを四つ探して、記号で書きなさい。

「ロ・ニ・リ・ヌ」

歴史的仮名遣いの
五つの法則

- 1 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」はそれぞれ「わ・い・う・え・お」に変わる
- 2 「ゐ・ゑ・を」はそれぞれ「い・え・お」に変わる
- 3 「ぢ・づ・む」はそれぞれ「じ・ず・ん」に変わる
- 4 「くわ・ぐわ・つ・や・ゆ・よ」はそれぞれ「か・が・(つ)・や・ゆ・よ」に変わる
- 5 「ア段+う(ふ)」は「オ段+う」に
「イ段+う(ふ)」は「イ段+ゆ」に
「エ段+う(ふ)」は「イ段+よ」に
それぞれ変わる

音読・朗読の
注意点

- 1 正しい姿勢・その場に応じた声の大きさ・相手を意識した態度で読む
- 2 正確さと読むときの速さで読む
- 3 アクセントやイントネーションに気をつけて読む(強弱を意識して読む)
- 4 読んでいる内容の情景を思い浮かべ、豊かな表情で読む

古文の
表現の特徴

- 1 省略された「助詞(は・が・を・で、など)省略された「主語(誰が)省略された言葉
- 2 係り結びの法則(そ・なむ・や・か・こそ) 会話文の力キ(「」)
- 3

和歌の調べ
<リズム>

- ・句切れ 意味や調子の上の切れ目。作者の感動の中心。
- ・五七調(万葉調) 二句切れ(57/577)・四句切れ(5757/7) 力強く重々しいリズム。素朴で儼かな感じ。
- ・七五調(古今調) 初句切れ(5/7577)・三句切れ(575/77) 優しくなめらかなリズム。優雅・軽快な感じ。

和歌の主な表現技法

- ・体言止め 歌の終わり(結句)を体言(名詞)で止めて、余韻を残す
例 村雨の露もまだひぬまきの葉に霧立ちのぼる秋の夕暮れ
- ・見立て・擬人法 ある物を別の物になぞらえる技法
例 山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり
- ・倒置法 主語と述語、修飾語と被修飾語の順序を入れ替える技法。調子を整え、強調する。
例 ちはやぶる神代も聞かず 竜田川からくれなゐに水くくるとは
- ・枕詞 言葉の飾りで、意味は歌にあまり影響しない。決まった組み合わせで用いられ、主に五音からなる。
例 あしひきの・山・峰 あをによし・奈良 しろたへの・衣・袖・雲
ちはやぶる・神 たらちねの・母 ぬばたまの・黒・夜・髪
- ・掛詞 一つの言葉に二つ以上の意味をもたせて、歌の内容を豊かにする。
例 山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば
かれ・(人目も) 離(か)れ・(草も) 枯れ
- ・その他 縁語⇨関連深い語を意識して用いる技法
序詞⇨ある語句を導き出すためにその前置きとして用いられる言葉
本歌取り⇨すでに読まれた古歌(本歌)の語句を取り入れる技法